

2021（令和3）年度日本財団助成事業

スポーツからの学びを日常生活につなげる
保護者向けスポーツマンシップ教育プログラム

事業報告書

2022年3月

一般社団法人日本スポーツマンシップ協会



Supported by

THE NIPPON
FOUNDATION

目次

1. 本事業の背景・目的	3
2. 本事業の目標	4
3. 取組内容	5
3-1. 人型ロボット PEPPER によるオンライン親子教室の実施	5
3-2. メールマガジンの定期発行	14
3-3. 保護者向けオンラインセミナーの実施	20
3-4. 保護者向け情報媒体（小冊子、動画）の作成・提供	24
3-5. 保護者の価値観・認識・行動の変化に関する調査	27
4. 本事業の成果と課題	38
4-1. 成果	38
4-2. 活動を通じて明らかになった新たな課題と対応策	39
5. おわりに	40

1. 本事業の背景・目的

- 日本スポーツマンシップ協会では、主にスポーツ指導者を対象としたスポーツマンシップ教育の取り組みにより、競技を原点とするスポーツが有する活動の形・場面・状況を生かしながら、スポーツマンシップという概念に包含される尊重、勇気、覚悟など、スポーツを愉しむこととスポーツを通じて人格を育むことを両立させるスポーツ指導の普及を図ってきた。
- 一方で、スポーツマンシップを学んだ指導者からは、子どものスポーツを通じた気づきや学びが生活での実践に引き継がれないことを苦慮する声が聞かれる。その背景の一つには、スポーツ指導者と保護者との間に、スポーツマンシップに対する認識や理解のギャップがあると考えられる。
- スポーツ環境の中で体現され始める子ども自身のスポーツマンシップが、生活環境の中で保護者によって効果的に促されないジレンマがある（例えば、スポーツ指導者が子どもに主体的な思考・判断や実践を促した後、家に帰ると保護者は子どもに対して指示的であり、主体性を発揮する機会を逸するなど）。このジレンマは行動変容ステージモデルにおける「逆戻り」を生むことから、スポーツ指導におけるスポーツマンシップ教育を通じた子どもの人格形成の制約要因となっていると考えられる。
- そこで、本事業では、新たに保護者を対象としたスポーツマンシップ教育プログラムを開発し、実証的にその効果や課題の検証を行った。
- 具体的には、保護者自身がスポーツマンシップの概念を分かりやすく学び、その認識や理解を促し、それを前提とした子どもへの声かけや働きかけ、傾聴などの行動の量や場面を増やすことを通して、子どもがスポーツ活動の中で学んだスポーツマンシップを日常生活の中でも体現しやすいような環境をつくることを目指した。
- また、一度きりの知識提供型の介入効果は限界があると考えられるため、保護者の継続的な行動変容を支援するための情報提供の効果についても検証することとした。

2. 本事業の目標

本事業が目指す「子ども・若者の未来」

最終的には

- スポーツの得意・不得意に関わらず、子ども、保護者、スポーツ指導者が三位一体で、スポーツの価値をより豊かに享受できるような、新たなスポーツへの関わりの標準を確立する。その結果、スポーツ基本法の基本理念に示されたスポーツを通じたより良い人格の形成を実現する。

▼ そのために

中長期的には

- スポーツマンシップに対する保護者の認識や理解、日常生活における支援行動が促進されることで、スポーツ指導の中で子どもが学ぶスポーツマンシップを、保護者が日常生活の場面や状況の中で引き出して活かせるようになり、子どもが主体的にスポーツマンシップを体現できるようになる。
- 本年度の取り組みを通じて本モデルの効果を実証することで、全国にある他のスポーツクラブや競技団体、自治体などに展開するといった波及効果を期待する。

▼ そのために

本事業では、以下の目標を設定した。

- 1. 初期（ベースライン）調査（2021年6月実施）** 初期データを取るため、連携スポーツクラブの会員1,500世帯を対象に、本事業開始前における保護者の（1）スポーツに対する期待、（2）スポーツマンシップに対する価値観・認識・理解、（3）保護者と子どもの行動の状況に関するアンケート調査を行う。
- 2. 人型ロボット Pepper によるオンライン親子教室の実施** スポーツマンシップに関わる「共通言語」を親子で考え、学び、共有することを目指す。参加者の認識や理解度の変化を測る（対初期比較）。参加者の満足度や推奨度を測る（目標：参加者アンケートで80%以上）。
- 3. 保護者向けオンラインセミナーの実施** 保護者のスポーツマンシップに対する認識や理解の促進を図ることを目指す。参加者の認識や理解度の変化を測る（対初期比較）。参加者の満足度や推奨度を測る（目標：参加者アンケートで80%以上）。
- 4. 保護者向け情報媒体（小冊子、ウェブサイト）の作成・提供** 保護者のスポーツマンシップに対する認識や理解の促進を図ることを目指す。小冊子経由でのウェブサイトへのアクセス数を測る。
- 5. メールマガジンの定期発行** 日常での子どもの主体的行動を促す保護者の行動変容（支援行動の量的増加）を目指す。メールマガジン経由でのウェブサイトへのアクセス数を測る。
- 6. 事後調査（2021年11月～2022年2月実施）** 初期データからの変化を測るため、1と同様の対象、項目にてアンケート調査を行う。小冊子及びメールマガジンの閲覧実績や主観的な有用性を測る（目標：いずれも80%以上）。

3. 取組内容

3-1. 人型ロボット Pepper によるオンライン親子教室の実施

3-1-1. 概要

- 時期：2021年8月～2021年11月（計4回・毎月開催）
- 場所：オンライン（Zoom）
- 対象：82人の親子（連携スポーツクラブ小学生会員とその保護者37組82人（保護者35人子ども47人）
- 内容：テキスト「スポーツマンシップ・バイブル」を用いながら、クイズ形式で分かりやすくスポーツマンシップを考える・学ぶ

3-1-2. 内容

<プログラム>

- 日本スポーツマンシップ協会（JSA）は千葉商科大学（CUC）及びソフトバンク社と共同で親子向けスポーツマンシップ教育プログラム「Pepper の特別オンライン授業『スポーツマンになろう！—クイズで学ぶ「スポーツマンシップ」—』を開発した¹。
- 本プログラムは、クイズ番組のようなしつらえで出題し、テレビの前でクイズ番組を観ている親子のような関係で一緒に考えながらクイズに答えていくことで、スポーツやスポーツマンシップに関する理解を深めていく形式で作られている。
- 本プログラム自体が、スポーツを縮図化した構造となっており、親子で参加していながらも、最後は子ども自身が自分の考えを仲間に伝える行動を取ること、その行動に保護者が寄り添う形で本プログラムに参加してもらうため、クイズを始める前には、以下のルールの説明を行った。

ともだち たいせつ おも 友情 やり、いけん 意見を よく 聞き ましょう。ゆうき だ 勇気 を 出して、じぶん かんが 自分 の 考え を 仲間に 伝え ましょう。むず 難しく ても あきらめ ずに、ぜんりょく 全力 を 尽く し ましょう。

- 本プログラム自体がスポーツに見立てられており、以下のゲームで構成されている²。

Game 1 スポーツってなに？

Game 2 ゲームってなに？

¹ 本プログラムの開発には、千葉商科大学サービス創造学部と連携し学生の実践教育にフィールドを提供する、株式会社千葉ジエツフなばしの協力も得ている

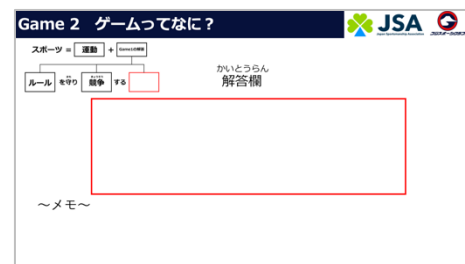
² この内容は一般社団法人日本スポーツマンシップ協会が出版している書籍「スポーツマンシップバイブル」（中村聡宏著、2020年）p.16～23に準ずる。詳細は本書参照のこと www.amazon.co.jp/dp/4491039739

Game 3 最高にうれしいのはどんな時？
 Game 4 スポーツをするために必要なものとは？
 <スポーツマンに大事な3つのポイント>
 Game 5 スポーツマンかわかるときはどんなとき？
 The Last Game スポーツマンになりたいですか？

- 各ゲームのクイズは、ソフトバンク社の人型ロボット Pepper が出題した。
- ファシリテーターは、本プログラムの開発にたずさわっている、千葉商科大学サービス創造学部の学生が担当した³。親子が親しみを感じやすい雰囲気の中でプログラムを進行した。
- 参加者（親子）は、あらかじめ配布した「ワークシート」（解答を書き込む用紙）に回答を書き込み、ファシリテーターの呼びかけで、Zoom のカメラで解答がお互いに見えるように表示した。
- ファシリテーターはそれを見ながら、設問ごとに何人かの参加者を指名し、解答の内容やそのように考えた理由をたずね、参加者（子ども）はその質問に答えた。
- ファシリテーターは、勇気を出して自分の考えを仲間に伝えたことに対して、それを賞賛するコメントを都度発することで、子ども自身の自己肯定感を高め、子どもの主体性に対する保護者の認識に働きかけた。



Pepper 親子教室の様子



ワークシートの一例

<運営>

- **企画の検討** 本プログラムは物理的に分散するプロジェクトメンバー間で取組を進めるため、日本スポーツマンシップ協会の slack チーム内に本事業のチャンネルを立ち上げ、その中でチャットや書類の共有を行いながら、Zoom でオンラインミーティングを行い、企画の検討を進めた。
- **周知・申込** 初期アンケートで参加希望を取り、その希望者に本プログラムの開催案内を直接連絡したとともに、第2回プログラムからは、第1回プログラムの様子や参加者の評価・感想をまとめたチラシを作成し、連携スポーツクラブの各教室で掲示をして参加を募った。申込は原則オンラインフォームから行い、必要に応じて各教室担当者にフォローアップをお願いした。
- **参加者への事前連絡** 参加予定者には、①当日のオンライン・アクセス先情報、②「授業を楽しく受ける

³ 日本スポーツマンシップ協会では、学生インターンシップの受け入れや協会理事・スタッフとのバディ制度等を導入し、協会活動の活力を高めながら、スポーツマンシップを核とした次代を担う若者の育成に取り組んでおり、本プログラムへの参画もその一環に位置付けられている。関連記事：東京新聞「尊重、勇気、覚悟…スポーツマンシップって？ 普及を目指す協会の学生インターンが奮闘」（2021年12月15日）<https://www.tokyo-np.co.jp/article/148981> [2022年3月31日最終閲覧]

ための3つの注意点！」、③Zoom 不具合対応マニュアル、④ワークシートの4点をパッケージにしたものを、各教室担当者を通じてお渡しした。

- **当日に向けたリマインド** 参加予定者には、当該回のファシリテーターが申込時に取得したメールアドレス宛に事前にメールを送信した。メールの内容は、①参加申込へのお礼、②当日資料の各教室での受取のお願い、③当日の Zoom URL を含むリマインドなどであり、数回に分けて送信した。メールの送受信がうまくいかないケースも散見された。その場合は、各教室でのフォローをお願いした。なお、初期の段階で送信漏れ等の課題を発見し、その後、slack のダイレクトメッセージを使ってメールの宛先確認のダブルチェックを行うように改善を図った。
- **当日** 当日は、本プログラムの開発をリードした千葉商科大学サービス創造学部 of 学生チームが中心となり、役割分担をしてファシリテーション、Zoom のオペレーション、トラブル対応等を担当した。
- **事後** 本プログラムの効果を検証するため、オンラインでのアンケート調査を実施した。

3-1-3. 参加実績

- 本プログラムには、11歳から2歳の子ども及びその保護者が参加した。本プログラムは小学生（特に中高学年）を主たる想定対象者として開発されたが、結果として、小学校低学年やその兄弟等の未就学児・未就園児も一緒に参加した。
- 各回の参加実績は以下の通り。

回	開催日時	参加申込者数	当日参加者数
1	2021年8月29日（日） 18:00-19:00	22組 38名（子ども26名、 保護者22名）	9組 22名（子ども13名、 保護者9名）
2	2021年9月23日（木・祝） 18:00-19:00	15組 35名（子ども17名、 保護者18名）	11組 25名（子ども14名、 保護者11名）
3	2021年10月23日（土） 19:00-20:00	12組 27名（子ども16名、 保護者11名）	9組 22名（子ども12名、 保護者10名）
4	2021年11月10日（水） 19:00-20:00	8組 16名（子ども8名、 保護者8名）	8組 13名（子ども8名、 保護者5名）
	合計	57組 116名（子ども67名、 保護者59名）	37組 82名（子ども47名、 保護者35名）

3-1-4. 事後アンケート

- 本プログラムに参加した子どもの理解度や感想、保護者の理解度や満足度、推奨度等を把握し、本プロ

グラムの効果の検証と今後の改善につなげるため、事後アンケートを実施した。

- 事後アンケートは、各回終了時に案内するとともに、事後にアンケート回答先 URL をメールで送信し、参加者に回答を依頼した。
- 本アンケートは、参加世帯ごとに一度（一通）回答してもらう形式を取った。各回の回答数（回答率）は以下の通り。

回	回答日	回答数	回答率
1	8月29日～9月3日	7	78%
2	9月23日	4	36%
3	10月23日	5	56%
4	11月10日	7	88%
合計		23	62%

- 本アンケートの設問は全 12 問。回答結果は以下の通り。

（子どもの回答）

- ▶ スポーツマンシップについてわかりましたか。（n=23）

わかった	どちらかといえば わかった	どちらでもない	あまり わからなかった	わからなかった
13	6	2	2	0
56.5%	26.1%	8.7%	8.7%	0.0%

- ▶ 親子で学べる！Pepper の特別オンライン授業をたのしむことはできましたか？（n=23）

たのしむことが できた	どちらかといえば たのしむことが できた	どちらでもない	あまり たのしむことが できなかった	たのしむことが できなかった
20	3	0	0	0
87.0%	13.0%	0.0%	0.0%	0.0%

- ▶ この授業を通して自分はどうなりたいと思いましたか。（自由記述）

<スポーツマン/スポーツマンシップ>

- スポーツマンになりたいと思いました（10）
- 本当のスポーツマンになりたいと思った
- カッコいいスポーツマンになりたい
- スポーツマンシップを目指す

<体操>

- 体操を楽しみたい (2)
- 体操がうまくなりたい (2)

<スポーツへの向き合い方>

- 運動が今よりもっとできるようになって、スポーツを楽しみたいと思いました。
- 負けたときもがんばる
- オリンピックに出たい！

<生き方・振る舞い方>

- 諦めない人になりたいです。
- がんばろとおもいました
- お友達がうまくできたらほめてあげたいと思った

※関連する自由記述をまとめて、要素別に分類した。

▶ きょう参加（さんか）して感じたことを教えてください。（自由記述）

<参加した感想>

- 楽しかった (6)
- ベッパーに会えて楽しかったです
- お兄さんとお姉さんが優しくて楽しかったこれからも体操がんばります
- 勉強になりオンラインでできて良かった
- 他の人の意見を聞きながらスポーツマンについて知れて面白かった

<勇気>

- 先生が優しくった。意見を言うのは恥ずかしかったけど、勇気を出して頑張れた
- たくさん発表できてよかった
- 答えられなくて悔しかったけど、勇気を出して頑張った
- みんなの前で発表するのは学校で慣れていたけど今日やったときはドキドキした Oh no 😞 でも楽しかった♪

<学んだこと>

- 知らない言葉がたくさんあった
- たのしくやることがたいせつ
- いろんな事が分かりました
- スポーツマンのことがいろいろわかった
- スポーツマンは、スポーツがあまり関係ないと聞いて、びっくりしました
- いつも自分は負けた時にギャーっと癩癩を回してしまうが、それはよくないことだと解った
- スポーツとはゲームということを知りました。スポーツは楽しむことが大切で、負けても相手を責めたりしないで相手を大切にす気持ちも大切ということも知りました。またこういうオンライン講座があったら参加したいです

<決意>

- これからも体操をがんばりたい！
- スポーツマンになりたい

※関連する自由記述をまとめて、要素別に分類した。

(保護者の回答)

▶ スポーツマンシップに対する理解が深まりましたか。(n=23)

理解が深まった	どちらかといえば 理解が深まった	どちらでもない	あまり理解が 深まらなかった	理解が 深まらなかった
20	3	0	0	0
87.0%	13.0%	0.0%	0.0%	0.0%

▶ 親子で学べる！Pepperの特別オンライン授業はお子様にとって良いものだと感じましたか。(n=23)

良いものだと感じた	どちらかといえば 良いものだと感じた	どちらでもない	あまり良いものだと 感じなかった	良いものだと 感じなかった
20	3	0	0	0
87.0%	13.0%	0.0%	0.0%	0.0%

▶ 親子で学べる！Pepperの特別オンライン授業を他の親子（保護者）にも薦めたいと思いましたか。
(n=23)

薦めたい	どちらかといえば 薦めたい	どちらでもない	あまり薦めたくない	薦めたくない
13	6	4	0	0
56.5%	26.1%	17.4%	0.0%	0.0%

▶ 親子で学べる！Pepperの特別オンライン授業に参加して感じた利点を教えてください。(複数回答可)

回答肢	回答数
気軽に参加できた	17
親子で学べた	21
無料だった	13
画面越しに他の参加者の様子を見ることができた	7
新しいことを学べた	12
双方向型の授業だった	10
特に利点は感じなかった	0
<u>その他</u> ・他の子どもの意見（発想）を聞くことができた	

- ▶ 親子で学べる！Pepper の特別オンライン授業に参加にあたって不安な点や心配だった点を教えてください。（複数回答可）

回答肢	回答数
Zoom に接続できるか	1
映像が途切れないか	1
ミュートや画面の操作ができるか	2
授業の内容がたのしいのか	9
授業の内容がためになるのか	7
ギガ（通信容量）が足りるか	0
特に不安な点や心配だった点はなかった	9
<u>その他</u> ・1 時間の長丁場の授業に子ども達が参加できるか ・3 歳のこどもでついていけるか ・本人の興味	

- ▶ 実際に親子で学べる！Pepper の特別オンライン授業の中で問題などありましたか？

回答肢	回答数
特に問題がなかった	19
問題があった	4
<u>問題があったと回答した方の自由記述</u> ・幼児から低学年には時間帯が遅かった。お風呂、夕飯の時間なので、(日)で父母のどちらかが付き合えるのであれば、負担はないと思う。 ・自分の画面が反転していて文字が鏡文字になってしまっていた。 ・兄弟の送り迎えがあつたりして、参加できない時間がありました。 ・答えが一つだけではないように感じた	

- ▶ 親子で学べる！Pepper の特別オンライン授業の感想を教えてください。（自由記述回答）

- 単に体操だけでなく、こういった人間形成に必要な「考える」授業はぜひとも参加させたい。今回、子ども自身が日頃の振る舞いを振り返ることをしたので、参加してよかったと思う。
- クイズ形式だったので子ども達も飽きることなく、親子で話し合いながら解答を考えたりととてもいい経験ができました。
- 大人もスポーツマンとはなにか？と聞かれると漠然としか答えられなかったものを、改めて考える切っ掛けになり良かったです。過去に Pepper と仕事をしていた事もあり、久々に触れ合えて楽しかったです。ご準備大変だったと思います。子どもたちも予想より楽しんでくれてよい経験になりました。ありがとうございました。

- 尊重や覚悟はまだ知らない言葉でしたが、わかりやすく説明くださったり、発表のたびに褒めてくれることが見ていてとても感心できたと、褒められているお子さんとても嬉しかったと思う。
- お世話になり、ありがとうございました。大会に参加したりしてないと、なかなか勝負事として体操や運動に向き合うことはないことを実感しました。スポーツに対する意識が変わるといいなと思います。
- ありがとうございました
- 学生さん達が、子どもたちの気持ちに寄り添ってお声かけしてくださって、和やかな雰囲気でき安んできました。内容もとてもわかりやすくお話ししてくださり、親子で楽しく学べました。我が子が今回気付いたことを今後活かし、スポーツを通して成長して欲しいと感じました。ためになる講座に参加できて、嬉しく思っています。ありがとうございました。
- 子どもが主体的に学べて良かった。
- クイズ形式で改めて聞かれると親も考えさせられる内容でした。
- 親子で一緒に勉強できて、よかったです。
- 3歳の子どもでついていけるか不安でしたがクイズ形式でテンポもよく楽しめたようでした。回答に対し、受け止めてくれたことが嬉しかったようで、授業後も、ほめてくれたよと家族に話していました。これをきっかけに、家族でスポーツマンシップについて話をしてみました。
- 先生が優しいお姉さんで子どもには保育園の先生のようなイメージで親近感が生まれ参加して話聞きやすそうでした。
- 先生たちが一生懸命でした。これからも頑張ってください。
- まず子ども達は体操を楽しむ事から始まりましたが、体操を通して学べる事がたくさんあり、今後が楽しみです。
- わかっているつもりでも意外と問題が難しかったです。改めて勉強できました。また、子どもが少し緊張しているのが横でわかり、少し新鮮でした。
- 園児と小学生低学年には言葉の意味が親のサポートなしには理解が難しい箇所がありましたが概ね理解し楽しめました。たくさん指して頂いてこの授業に自信を持ち記憶に残ったと思います。ありがとうございました。
- 子どもがクイズ形式で楽しめていてよかったです。
- 子どもが楽しく参加でき学べたのでよかったです。
- 普段言葉にしない事を敢えて、考えて答えたりしていましたが、お友達がやっているのを見て、恥ずかしい事ではないと感じたようですし、意見を言葉にできたのはいい経験になったと思います。
- 親子で考えることの大切さを実感しました。
- 大切なことを学びました
- 親子で一緒に考えて答えを出すのがとても良いと思った。
- 初めてでどの様な事をするのか不安もあったが、子どもが楽しそうに参加出来た。

3-1-5. 目標に対する成果と課題

<設定した目標>

スポーツマンシップに関わる「共通言語」を親子で考え、学び、共有することを目指す。参加者の認識や理解度の変化を測る（対初期比較）。参加者の満足度や推奨度を測る（目標：参加者アンケートで80%以上）。

<成果>

（定量）

- 子どもの理解度 82.6% (19/23)
- 子どもの満足度 100% (23/23)
- 保護者の理解度 100% (23/23)
- 保護者の満足度 100% (23/23)
- 保護者の推奨度 82.6% (19/23)

（定性）

- 親子がともに学ぶことで親子間の共通言語を持つことをねらいとした点については、「親子で学べた」ことへの定量的な評価が高かったことに加え、「親子で話し合いながら解答を考えたりととてもいい経験ができました」、「親子で一緒に勉強できて、よかったです」、「親子で考えることの大切さを実感しました」、「親子で一緒に考えて答えを出すのがとても良いと思った」、「3歳のこどもでついていけるか不安でしたがクイズ形式でテンポもよく楽しめたようでした。回答に対し、受け止めてくれたことが嬉しかったようで、授業後も、ほめてくれたよと家族に話していました。これをきっかけに、家族でスポーツマンシップについて話をしてみました」などの感想が複数見られたことから、その形式への一定の価値や意義が保護者に受け入れられたと考えられる。
- 子どもの主体性の中に生まれる尊重／勇気／覚悟を保護者が認め、その自立／自律を尊重することをねらいとする点については、「今回、子ども自身が日頃の振る舞いを振り返ることをしたので、参加してよかったと思う」、「我が子が今回気付いたことを今後に活かし、スポーツを通して成長して欲しいと感じました」、「子どもが少し緊張しているのが横でわかり、少し新鮮でした」、「子どもが主体的に学べて良かった」、「普段言葉にしない事を敢えて、考えて答えたりしていましたが、お友達がやっているのを見て、恥ずかしい事ではないと感じたようですし、意見を言葉にできたのはいい経験になったと思います」などの感想が複数見られたことから、子どもが主体的に課題に向き合う姿勢を保護者が横で目の当たりにすることで、これまで見ることのなかった一面を認識し、それが保護者の子どもに対する関わり方の変容につながるきっかけとなる可能性を確認することができた。

<課題>

- 想定よりも少ない参加者数での実施となった。連携スポーツクラブ会員保護者の関心を十分に喚起できなかった可能性がある。「授業の内容がたのしいのか（n=9）」、「授業の内容がためになるのか（n=7）」という不安を抱えて参加した保護者が、実際に参加した結果、本プログラムに対してポジティブな評価をしていることを踏まえると、どのように参加までのハードルを下げるかが課題と言える。
- 今回は試行的な取組として、参加する子どもの学年・年齢等を一切限定せずに受け入れて実施をした。参加申込を見て、さすがに未就学児には内容が難しく、飽きてしまうのではないかと考えていたが、「3歳児

でもクイズ形式でテンポ良く楽しめた」というアンケート回答を見て、こちらの想定よりも幅広くアプローチできる可能性があることを再認識した。ただ、本プログラムのように、質問を投げかけたり、参加者がお互いに考えを出し合う形式の場合、できるだけ参加者の理解度やコミュニケーションのレベルを合わせた方が良いと考えられるため、今後の実施においては、その点に関する工夫と改善が求められる。

3-2. メールマガジンの定期発行

3-2-1. 概要

- 内容：日常生活の場面や状況に応じてスポーツマンシップを促す子どもへの声かけや働きかけ、傾聴など、すぐに実践できる具体的な方法（ティップス）やアイデア
- 方法：メールでの送信
- 対象：Pepper 親子教室に参加した保護者、事前アンケートで配信を希望した保護者 86 人
- 時期：2021 年 11 月～2022 年 2 月（4 ヶ月間）
- 頻度：週 1 本（毎週配信）
- 備考：親子教室受講後 3 ヶ月間の行動変容支援、希望者への情報提供

3-2-2. 内容

<配信内容>

- 2021 年 11 月 23 日から 2022 年 2 月 13 日にかけて、全 10 回にわたり、本事業対象者における希望者を対象に「フジスポメールマガジン」を定期発行した。
- 各回の配信日、テーマ、配信内容は以下の通り（配信内容の詳細は、各記事への URL から閲覧できる）。

配信回	配信日	テーマ	配信内容 URL
1	2021/11/23	あなたのお子さんは“愉しんで”ますか？	https://sportsmanship.jpn.com/fujispo-melmaga/01-2/
2	2021/11/30	成長の壁は「できた！」の積み重ねで乗り越える	https://sportsmanship.jpn.com/fujispo-melmaga/02-2/
3	2021/12/10	「結果が全てじゃない」ってホント？	https://sportsmanship.jpn.com/fujispo-melmaga/03-2/
4	2021/12/15	「応援」のつもりが「干渉」になってない？	https://sportsmanship.jpn.com/fujispo-melmaga/04-2/
5	2021/12/28	「失敗」を恐れず「挑戦」する勇気、後押ししていますか？	https://sportsmanship.jpn.com/fujispo-melmaga/05-2/
6	2021/1/6	「努力する」ことの本当の意味って？	https://sportsmanship.jpn.com/fujispo-melmaga/06-2/

7	2022/01/17	伸びる子には共通点がある	https://sportsmanship.jp.com/fujispo-melmaga/07-2/
8	2022/1/23	「練習に行きたくない」とお子さんが言い出したら？	https://sportsmanship.jp.com/fujispo-melmaga/08-2/
9	2022/02/02	「うまくできる子」「できない子」お互いを認め合うには？	https://sportsmanship.jp.com/fujispo-melmaga/09-2/
10	2022/2/13	たかがスポーツ、されどスポーツ	https://sportsmanship.jp.com/fujispo-melmaga/10-2/

- 各回の配信を読み逃した受信者向けに、日本スポーツマンシップ協会のウェブサイト内に、本メールマガジンのバックナンバーのページを新たに開設し、そこから各記事を読覧できるようにした⁴（下図）。

The screenshot shows the JSA website's 'Fujispo Email Magazine TOP' page. At the top, there is a navigation menu with links for '基本情報', '理念', 'NEWS', '書籍', 'Handbook', '資格制度', 'Awards', 'スポーツマンシップ・デ', and 'お問い合わせ'. A search bar is located on the right. The main content area features a list of 10 issues, each with a title and a date in parentheses. The titles are: 1. あなたのお子さんは「楽しんで」ますか？ (2021/11/23-29配信), 2. 成長の量は「できた!」の積み重ねで乗り越える (2021/11/30配信), 3. 「結果が全てじゃない」ってホント？ (2021/12/10-13配信), 4. 「応援」のつもりが「干渉」になってない？ (2021/12/15配信), 5. 「失敗」を恐れず「挑戦」する勇気、後押ししてですか？ (2021/12/28配信), 6. 「努力する」ことの本当の意味って？ (2022/1/6配信), 7. 伸びる子には共通点がある (2022/1/17配信), 8. 「練習に行きたくない」とお子さんが言い出したら？ (2022/1/23配信), 9. 「うまくできる子」「できない子」お互いを認め合うには？ (2022/2/2配信), 10. たかがスポーツ、されどスポーツ (2022/2/13配信). Below the list, there is a profile for Takagi Mina, a sports writer, and a link to an article. The right sidebar contains news updates, including 'スポーツマンシップセミナー' and 'オンラインセミナー', and an 'アーカイブ' (Archive) section with links for each month from May 2021 to March 2022.

⁴ 「フジスポメールマガジン」TOP には <https://sportsmanship.jp.com/fujispo-melmaga/> からアクセスできる。

<運営>

- 本メールマガジンの制作にあたっては、メールマガジンの配信に精通した協会スタッフをリーダーに制作体制を構築し、配信の準備にあたった。
- また、スポーツマンシップという概念に馴染みのない保護者でも読みたいと思えるテーマ・導入・内容とすべく、メールマガジンの編集長の人選を行った。その結果、スポーツ及び保護者の両視点からの記事執筆のできる高樹ミナ氏⁵に依頼し、本メールマガジンの記事執筆を行った。
- 記事執筆に必要な参考情報の収集には、協会スタッフ及び千葉商科大学サービス創造学部の協会インターン生が対応した。

3-2-3. 配信実績

- 本メールマガジンの受信登録者は 86 人であった。

3-2-4. 事後アンケート

- 本メールマガジン配信終了後の 2022 年 2 月 26 日、本メールマガジン登録者宛に事後アンケートを送信した（回答期限：3 月 6 日）。
- 本アンケートには、26 人のメールマガジン購読者が回答した（回答率 30%）。
- 本アンケートの設問は全 4 問。回答結果は以下の通り。

▶設問 1：メルマガ閱讀頻度について

10 回すべて 読んだ	5 回以上は 読んだ	数回は 読んだ	一度も 読んでいない	合計
3	11	12	0	26
11.5%	42.3%	46.2%	0.0%	100%

(メルマガ閱讀が数回だった理由)

- 配信されたタイミングがいそがしい時間帯で読む余裕がなかった 6

⁵ スポーツライター。千葉県出身。競馬、F1、プロ野球を経て、00 年シドニー、04 年アテネ、08 年北京、10 年バンクーバー冬季、16 年リオ、20 年東京五輪・パラリンピックを取材。主に卓球、トライアスロン、車いすテニス、陸上（義足種目）等をカバー。執筆活動の他 TV、ラジオ、講演等にも出演する。近著に『卓球ジャパン女子』（汐文社）。『ポジティブラーニング』（松岡修造／文藝春秋）、『転んでも、大丈夫』（臼井二美男著／ポプラ社）、『美宇は、みう。』（平野真理子／健康ジャーナル社）他で構成・企画を担当。国際スポーツ記者協会および日本スポーツプレス協会会員。最近の記事は「卓球・21 歳早田ひなが明かす“出られなかった東京五輪”」（Number Web） <https://number.bunshun.jp/articles/-/849940> など。

- 受信に気づかず、見逃した 4
- タイトルに興味をひかれなかった 2

▶設問 2：メルマガの内容について

項目	そう思う	まあそう思う	あまりそう 思わない	そう思わない	合計
1. 興味深く読んだ	12	2	0	0	14
	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	100%
2. 子育ての参考 になった	11	3	0	0	14
	78.6%	21.4%	0.0%	0.0%	100%
3. 難しくてよくわか らなかった	0	2	1	11	14
	0.0%	14.3%	7.1%	78.6%	100%
4. 新たな気づきを 得た	12	2	0	0	14
	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	100%
5. フジスポへの信 頼が増した	11	3	0	0	14
	78.6%	21.4%	0.0%	0.0%	100%

▶設問 3：メルマガ読後の自身の思考や行動の変化について

項目	当てはまる	まあ当ては まる	あまり当て はまらない	当てはまら ない	合計
1. 子育てについての考え方に 変化があった	7	6	1	0	14
	50.0%	42.9%	7.1%	0.0%	100.0%
2. 体操についての考え方に変 化があった	9	4	1	0	14
	64.3%	28.6%	7.1%	0.0%	100.0%
3. スポーツについての考え方に 変化があった	6	7	1	0	14
	42.9%	50.0%	7.1%	0.0%	100.0%
4. 子どもの言動について以前と 違う見方ができるようになった	10	3	1	0	14
	71.4%	21.4%	7.1%	0.0%	100.0%
5. 子どもの運動能力について の考え方が変わった	4	9	1	0	14
	28.6%	64.3%	7.1%	0.0%	100.0%
	5	9	0	0	14

6. 子どもの生活態度に関する声掛けに活かした（活かしている）	35.7%	64.3%	0.0%	0.0%	100.0%
7. 子どもの体操に関する声掛けに活かした（活かしている）	6 42.9%	7 50.0%	1 7.1%	0 0.0%	14 100.0%
8. 子育てが楽しくなった	4 28.6%	10 71.4%	0 0.0%	0 0.0%	14 100.0%
9. 家族／夫婦／親子での会話が増えた	1 7.1%	12 85.7%	1 7.1%	0 0.0%	14 100.0%
10. 体操以外のスポーツもやらせてみたいと思った（始めた）	5 35.7%	6 42.9%	3 21.4%	0 0.0%	14 100.0%
項目	話した		話していない		合計
11. メルマガの話題で子どもと話をした	7 50%		7 50%		14 100%

（メルマガの話題で話をしたときのお子さまの反応・発言、これから機会あれば話してみたいと思う内容など）

- 今できなくても失敗しても挑戦することが大事という話をしたところ、がんばるとやる気になっていた。体操でも今までは先生に手伝ってもらうのを待っていたが自分の力でやってみようという姿勢が増えた
- スポーツの楽しさ
- 検定でなかなか級が上がらず、やめたいと言うことがありました。あの連続技ができるところを見てみたいなーと言ったら、できるまでがんばる！と言ってくれました。本人は小学生まで！と決めているようですが、コロナ禍で部活がなかったりするので、親としては続けてもいいのでは？とっており、どう話し合うか迷っています。中学生になるとレベルの高い子が残るので、ついていけないのでは？と思っているのかもしれません
- 基本的には子どもの意見を尊重し、一緒に目標の共有と、やってみた結果出来なかったときには何が原因だったのか、無理のない程度に聞くようにしていますが、行き詰まっているときには、ここまで頑張ってきた過程と一緒に思い出して、自信に繋げていきたいと思います。成長の進度はそれぞれ違うので、お友達とは決して比べず比較対象は過去の自分であることを教えていきたいです

▶設問4：ご意見・ご感想（自由記述）

- メルマガ担当者の話やその道を極めた人の話は必ず心にささる部分があり、私自身の子育てを振り替える機会になりました。今後もたまにでもこのような配信があるとためになりますし、一般的な教室よりサービスが手厚いと感じられ、子どもに体操を習わせるモチベーション維持につながります

- スポーツに限らず子育て全般に応用できる内容の記事の紹介が良かった
- とても参考にしています
- ちょうど気になっていた記事などがあり、たいへん参考になりました。またやってほしいです
- 基本的には仕事終わりの電車の中で見る人が多いので、長文だとあまり目を通せないこともあります
- ほかにスポーツ系の習い事をしていて、子どもが行きたがらない時、の回が参考になりました。オリンピックにも触れていて興味深く読みました！

3-2-5. 目標に対する成果と課題

<設定した目標>

- 日常での子どもの主体的行動を促す保護者の行動変容（支援行動の量的増加）を目指す。
- メールマガジン経由でのウェブサイトへのアクセス数を測る。

<成果>

- 事後アンケート結果から、本メールマガジンが新たに子どもへの働きかけや子どもとのふりかえりを促進したことが確認できた。編集長には多くの事例に精通しているスポーツライターの高樹ミナ氏を招へいし、本事業の方針に沿った適切な事例を紹介しながら関心を喚起し、保護者にとってハードルが高すぎない新たな思考や行動の提案ができたのではないかと。
- 特に、「子どもの言動について以前と違う見方ができるようになった」保護者が多かった（「当てはまる」が71.4%）ことから、定期的なメールマガジンが保護者の日常における思考に変化を生み出す一定の効果があると考えられる。また、「今できなくても失敗しても挑戦することが大事という話をしたところ、がんばるとやる気になっていた。体操でも今までは先生に手伝ってもらおうのを待っていたが自分の力でやってみようという姿勢が増えた」といった意見のように、メールマガジンをきっかけに子どもとの対話が生まれ、その対話から子どもの主体的な行動変容につながったケースも見られた。

<課題>

- 事後アンケートにおいて「忙しくて読む余裕がなかった」と回答した保護者が3割弱いた。より多くの保護者に読んでもらえるような配信のタイミングや頻度、情報内容、情報量などの検討が必要ではないかと。
- 本メールマガジンを購読したのは、本事業のテーマに関心の高い一部の保護者群であると考えられることから、今後は、同様に関心の高い保護者の購読を増やす方策や、比較的に関心の低い保護者の関心を発掘するような方法も併せて検討する必要があると考えられる。
- 当初の予定では、本メールマガジンで関心を喚起した保護者に対し、ウェブサイトですらに具体的な情報を提供し、その情報への遷移（ウェブサイトへのアクセス数）を測る計画であったが、編集会議での協議を経て、本事業での試行では、メールマガジンの本文に記載のコアメッセージを伝えることに主眼を置き、それに関連する参照情報のURLを添付する形式で発行することになったため、2番目の設定目標は未達（未実施）となった。今後の検討課題とする。

3-3. 保護者向けオンラインセミナーの実施

3-3-1. 概要

- 日時：2022年3月17日（木）19:30-21:00
- 場所：オンライン（Zoom）
- 対象：33人（連携スポーツクラブ小学生会員の保護者、一般）
- 内容：スポーツ指導、児童教育の専門家とともに「子育てとスポーツマンシップ」を考える

3-3-2. 内容

<プログラム>

- 保護者向けオンラインセミナーは以下の内容で実施した。

スポーツの教育的価値を考える～教育ツールとしてのスポーツ活用～

スポーツ・教育両面に造詣が深いゲストをお招きし、スポーツからの学びを子どもたちの成長につなげ、スポーツマンシップの理解を深める機会としてオンラインセミナーを開催します！部活やクラブなどでスポーツをするお子さまを持つ保護者様にぜひお聴きいただきたい内容です！

日時：2022年3月17日（木）19:30～21:00

場所：オンライン（Zoom）

登壇者

（ゲスト）

- 神武直彦氏（慶應義塾大学システムデザイン・マネジメント研究科教授、慶應義塾横浜初等部部长）
- 森林貴彦氏（慶應義塾幼稚舎教諭）

（主催者）

- 宮下裕至（株式会社フジスポーツクラブ代表取締役社長）
- 中村聡宏（一般社団法人日本スポーツマンシップ協会代表理事/会長）
- 江口桃子（一般社団法人日本スポーツマンシップ協会理事、フリーアナウンサー）

- 本セミナーの中で議論された論点及び内容は以下の通り。

（論点1：子育てにどう向き合うか？）

- **フェイルファースト** 「成功か失敗か」ではなく、小さな失敗、改善できる失敗、早くできる失敗を重ねた先に成功がある、というマインドセットが大事
- **次どうする？** 失敗を責めても仕方がない。「次どうする？」と問うことで自分自身で答えを出すようにする

- **ギフト** 取組の振り返りに「Keep（継続すること）/Problem（課題）/Try（新たに取り組むこと）」をお互いにコメントする（共有・可視化）。自分宛のフィードバックを皆に書いてもらおうと「気持ち」を受け取っている感じになる。仕組みとしてできる
- 「知っている」と「やっている」の違い 実行力を伴った知識の付け方を意識する

(論点2：スポーツの教育的価値)

- **有形無形の価値** スポーツには見える価値と見えない価値がある
- **具体的に振り返る「場面」がある** あいまいに伝えず、具体的な場面で振り返りきっかけを与えるのが効果的。スポーツにはそういった「場面」がある
- **基本フォームを作る** スポーツはルールが基本的には明確かつ不変なので、その中で論理的に考えて取り組む力を育ておくことが、（ルールや原則が変わる）社会に出た後に対応する力となる（ゴルフの練習と本番の違い）
- **人を応援する力** スポーツは人を応援する力を育む
- **感覚とデータの差** スポーツはデータを取ることができる。ただデータがすべてではない。自分たちの感覚での振り返りとデータでのふりかえりを比較することが大事

(総括)

- 親も正解を知っているわけではない。失敗から学ぶ。それを自覚しておくことが大事
- 試行錯誤のプロセスを楽しむ。大人が人生を愉しむことを見せるのが、子どもへの一番の教育的価値。口で言うよりも、自分の愉しんでいる姿を見せる
- 「本当に子どものためになるのか」の視点。押しつけ、介入、代弁、それは子どものためになるのかを常に確認する。
- 「なぜ」それをやるのか？ Why の視点。子どもに身に付けてほしい考え方、そして親も考えるべき（なぜスポーツをするのか）

JSA 19時30分より開始します。今しばらくお待ちください。

『スポーツの教育的価値を考える』
～教育ツールとしてのスポーツ活用～

ゲスト
神武 直彦 氏
 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授
 慶應義塾横浜初等部 部長
森林 貴彦 氏
 慶應義塾横浜初等部 教諭

2021年度日本財団助成事業



3-3-3. 参加実績

- 申込：フジスポーツクラブ会員 5 人、一般 53 人、合計 58 人
- 参加：フジスポーツクラブ会員 3 人、一般 30 人、合計 33 人

3-3-4. 事後アンケート

- 本セミナー参加者を対象に事後アンケートを実施した。アンケート結果は以下の通り。(n=5)

項目	大変満足	満足	不満	大変不満	合計
セミナーへの満足度	3	2	0	0	5
	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	100.0%
項目	そう思う	まあそう思う	あまりそう 思わない	そう思わない	合計
1. 興味深く視聴した	2	2	0	1	5
	40.0%	40.0%	0.0%	20.0%	100.0%
2. 子育ての参考にな った	2	1	1	1	5
	40.0%	20.0%	20.0%	20.0%	100.0%
3. 難しくてよくわからな かった	0	0	2	3	5
	0.0%	0.0%	40.0%	60.0%	100.0%
4. 新たな気づきを得た	4	1	0	0	5
	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
5. セミナーの内容を子 どもに話をしたいと思っ た	1	4	0	0	5
	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	100.0%

(ご意見・ご感想)

- 失敗させて学ぶ、自分で決めることが大事だなと思いました
- 何かを説明する時には、具体的な場面のイメージを持ちながら話す大事さを改めて学びました
- 「人間力を育む」という基本スタンスのもと、「他者へのギフト」「基本のフォームを作る」などなど、たくさんさんの新しい視点をいただきました。「非認知能力」の大事さは常々感じているところですが、「具体的にどう」と説明しにくい部分なので、それを伝えることの難しさも日々痛感しています。ぜひ先生方からより一層発信していただきたいですし、「どう発信するか」についても共有させていただきたいです
- GPS の活用、興味深く拝聴しました。「気づきを与える」有効なツールと思いました。ただ「数値化」にはワナも潜んでいるかなと思います。身近な例で言えば女子体操選手の体重計測のような。一つの

指標ではあるけれども、それがその子のメンタルや実際のパフォーマンスにとってどうなのか。そこを総合的に見るのが指導者の役割なのかなと。

- ちょっと書ききれないほどいろいろ考えさせられました。ありがとうございました
- 質疑応答の時間がもっとあったらなと思いました
- 失敗話はまさに最近話題にしていた通りでした。ちょうど（子どもとの）新しい距離感を模索中なので、この方向性でいいんだ！と自信になりました
- ちょうど、子ども達にスポーツをさせる意味などを考えていたので、タイムリーな話題で嬉しかったです。スポーツや部活って良さを言語化するのが難しいですが、わかりやすくよかったです。男の子の育て方にも良いアドバイスを頂き感謝しております
- 本日のセミナー、ご案内いただき、ありがとうございました！子どもの教育に関わる一人として、皆さんのお話、大変参考になりました。多くのお母様方にも聞いて欲しいお話でした

3-3-5. 目標に対する成果と課題

<設定した目標>

- 保護者のスポーツマンシップに対する認識や理解の促進を図ることを目指す。
- 参加者の認識や理解度の変化を測る（対初期比較）。
- 参加者の満足度や推奨度を測る（目標：参加者アンケートで80%以上）。

<成果>

- 子育てをする保護者がスポーツをどのように認識するとスポーツの価値を子育てにより活かせる可能性が高まるのかについて議論し知見を共有できた点。スポーツ指導者だけでなく、スポーツ指導及び児童教育の両側面に知見を持つ専門家を招聘し、スポーツの持つ特長を客観的に捉えながら、今後の取組の鍵となる方向性について議論できたことが奏功した。

<課題>

- 本事業のコアターゲットである連携スポーツクラブ会員保護者への周知の時間が不足し、また関心の喚起が整わず、あまり参加を得られなかった。当初予定していた登壇者の調整が長引いた上に最終的に叶わず、講師の再選定等に時間を要した。

3-4. 保護者向け情報媒体（小冊子、動画）の作成・提供

3-4-1. 概要

- 内容：スポーツの価値やスポーツマンシップに対する関心を喚起するメッセージ、保護者の役割や関わり方に関するヒントやエピソードなど
- 配布先：連携スポーツクラブ会員（小冊子、ウェブサイト）
- 部数：2,000部（小冊子）

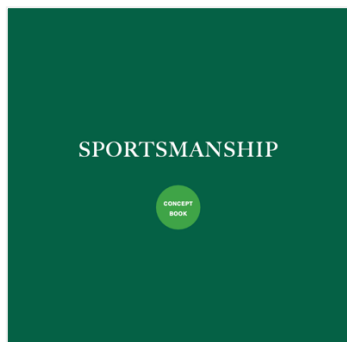
3-4-2. 内容

<小冊子>

- 以下の内容で構成される、合計20ページの小冊子（コンセプトブック）を制作した。

- **Game** Sports=Game。愉しかなければスポーツではない。
- **Good Fellow** Sportsman=Good Fellow。他人から信頼される「よき仲間」のこと。
- **Respect** 自分以外のすべてを尊重する。すべての価値や多様性を認め、感謝し、大切にしよう。
- **Challenge** 勇気を奮い挑戦する。失敗、困難、リスクを恐れることなく、自ら行動しよう。
- **Enjoy** 覚悟をもち勝利をめざして楽しみ抜く。困難や苦しみも受け入れ、最後まで諦めず全力を尽くそう。
- **Good Loser** よき敗者 = Good Loser。スポーツマンらしく、敗れた時こそ清く振る舞おう。
- **Good Winner** よき勝者 = Good Winner。勝った時こそ驕ることなく謙虚さを忘れずにいよう。
- **Value of Sports** たかが、スポーツ。されど、スポーツ。スポーツは人生にとって豊かさをもたらすものの。
- **Sportsmanship** Sportsmanship=Good Game を実現しようとする心構え。スポーツマンシップは人生のバイブルである。

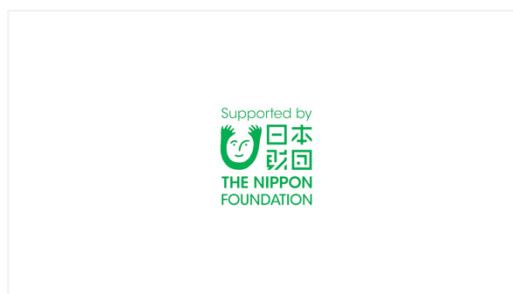
(ビジュアルイメージ)





<動画>

- 合計 2 分間の動画（プロモーションビデオ）を制作した。構成内容はコンセプトブックと同じ。（ビジュアルイメージ）



3-4-3. 目標に対する成果と課題

<設定した目標>

- 保護者のスポーツマンシップに対する認識や理解の促進を図ることを目指す。
- 小冊子経由でのウェブサイトへのアクセス数を測る。

<成果>

- 保護者は「スポーツは子どもの健康増進や体力向上、社会性の発達等に良いものだ」という漠然とした認識の上にスポーツクラブに子どもを入会させているケースが多く存在していると考えられ、より具体的にスポーツが子どもに何をもたらしうるかということに対する知識に対する関心は全体的には低いことが明らかになった。よって、保護者向け情報媒体で発信すべき情報の内容を修正し作成することができた。
- 本事業を通じて、スポーツの持つ価値や日常生活における子どもの主体性との関わりなど、多様な側面を有するスポーツについて分かりやすく紐解いていくことによって、保護者のスポーツに対する価値観や認識が変化することが明らかになった。よって、上述の小冊子の構成内容に示される、スポーツに関わる概念を言葉として可視化して、スポーツのイメージとともに訴求することで、スポーツに対する漠然とした認識に変化をもたらすことができると考える。

<課題>

- 保護者向け情報媒体の内容のあり方の特定や検討に時間を要し、作成・配布のタイミングが本事業終了間際になったことは反省材料として挙げられる。来年度の取組の中で、本情報媒体の活用やその効果については引き続き確認・検討を行いたい。

3-5. 保護者の価値観・認識・行動の変化に関する調査

3-5-1. 概要

- 本事業では、連携スポーツクラブの会員保護者のスポーツに対する価値観や認識、スポーツを通じた親子関係や子育てにおける行動状況について、本事業での各種取組に参加をする前と後で、それらにどのような変化をもたらすかを検証することにした。

3-5-2. 方法

- 本事業では、以下の流れで調査を実施した。

項目	内容
事前アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> 連携スポーツクラブの会員約 1,900 世帯を対象に、オンラインフォームによるアンケート調査を実施し、168 世帯（約 9%）から回答を得た 実施時期：2021 年 7 月～11 月
↓	
各種取組の実施	<ul style="list-style-type: none"> Pepper 親子教室の開催 メールマガジンの配信 保護者向けセミナーの開催 等
↓	
事後アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> 連携スポーツクラブの会員約 1,900 世帯を対象に、オンラインフォームによるアンケート調査を実施し、63 世帯（約 3%）から回答を得た 実施時期：2022 年 2 月～3 月
↓	
事前・事後アンケート比較分析	<ul style="list-style-type: none"> 事前アンケートと事後アンケートの両方に回答した会員 62 世帯を抽出し、その変化について検討を行った 比較は「全体」と「介入の有無分け」で行った 本調査は順序尺度（4. そう思う、3. まあそう思う・等）を用いた調査であるが、変化の傾向を実務的にみるために間隔尺度と同様の統計量の処理を行なった

- 調査票の作成にあたっては、当協会理事・スタッフや専門家との意見交換を行い、既存の大規模調査や先行研究で用いられている指標尺度等を参考にした。詳細は以下の通り。

設問	項目	参考とした指標尺度等
I スポーツの「良さ」について		
1：スポーツの良さに対する保護者の認識	1-15	・スポーツ庁(2020)「スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」」

2 : 子どもがスポーツをする時に大事にしてほしいこと	1-28	<ul style="list-style-type: none"> ・Leeら(2000)「Youth Sport Values Questionnaire (YSVQ:スポーツ価値意識尺度)」 ・藤後ら(2017)「スポーツ・ペアレンティング尺度」、青木(2003)「スポーツ観測定項目」 ・青木(2003)「スポーツ観測定項目」等
II スポーツを通じた「親子関係」について		
1 : スポーツを通じた親子関係	1-10	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者・専門家の意見を参考に独自に作成（フジスポーツクラブが使っている概念「自律心と運動能力を育む」「自律に必要な5つの力」を含む）
2 : 子どもが失敗したりうまくいかない時の対応	1-7	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者・専門家の意見を参考に独自に作成
III 子育てについて		
5 : 子育てで大切にしていること	1-12	<ul style="list-style-type: none"> ・日本教材文化研究財団(2016)「学ぶ意欲に及ぼす子育て関連要因の影響に関する研究」

3-5-3. 結果

<事前-事後比較（全体）>

- 各設問の回答数の中央値、最頻値、平均値、標準偏差を算定した。また参考値として対応のある2群データの平均値の差の検定（t検定）を行い、統計的有意差を評価した。
- 事前と事後の回答（の平均、中央値、最頻値等）の差を見たところ、いくつかの項目で変化が見られた。またそのうちのいくつかは、統計的に有意に変化していた。
- 詳細は下表の通り。

「スポーツマンシップと子育てとのつながり」に関する保護者アンケート 調査結果
 (事前調査:2021年7~11月、事後調査:2022年2~3月)

(n=62)

設問			尺度				中央値	中央値の差 (Post-Pre)	最頻値	最頻値の差 (Post-Pre)	平均値	標準偏差	平均値の差 (Post-Pre)	p値 * p<0.05 ** p<0.01
			4	3	2	1								
1	1	Pre	57	4	0	1	4	0	4	0	3.89	0.44	0.06	0.3213
		Post	59	3	0	0	4		4		3.95	0.21		
	2	Pre	36	20	5	1	4	0	4	0	3.47	0.71	0.16	0.0490 *
		Post	42	17	3	0	4		4		3.63	0.57		
	3	Pre	36	24	1	1	4	0	4	0	3.53	0.61	0.18	0.0266 *
		Post	45	16	1	0	4		4		3.71	0.49		
	4	Pre	32	27	2	1	4	0	4	0	3.45	0.64	0.15	0.1065
		Post	37	25	0	0	4		4		3.60	0.49		
	5	Pre	43	17	1	1	4	0	4	0	3.65	0.60	0.02	0.8293
		Post	42	19	1	0	4		4		3.66	0.51		
	6	Pre	53	7	2	0	4	0	4	0	3.82	0.46	0.00	1.0000
		Post	52	9	1	0	4		4		3.82	0.42		
	7	Pre	34	23	4	1	4	0	4	0	3.45	0.69	0.13	0.1455
		Post	40	19	2	1	4		4		3.58	0.64		
	8	Pre	29	31	1	1	3	1	3	1	3.42	0.61	0.13	0.1317
		Post	36	24	2	0	4		4		3.55	0.56		
	9	Pre	37	21	4	0	4	0	4	0	3.53	0.61	0.11	0.2259
		Post	42	18	2	0	4		4		3.65	0.54		
	10	Pre	16	28	16	2	3	0	3	0	2.94	0.80	0.02	0.8743
		Post	13	36	10	3	3		3		2.95	0.75		
	11	Pre	41	20	1	0	4	0	4	0	3.65	0.51	0.05	0.5171
Post		45	15	2	0	4		4		3.69	0.53			
12	Pre	42	15	4	1	4	0	4	0	3.58	0.69	0.16	0.0112 *	
	Post	47	14	1	0	4		4		3.74	0.47			
13	Pre	30	23	9	0	3	1	4	0	3.34	0.72	0.15	0.0715	
	Post	35	22	5	0	4		4		3.48	0.64			
14	Pre	38	20	4	0	4	0	4	0	3.55	0.61	0.05	0.6161	
	Post	40	20	1	1	4		4		3.60	0.61			
15	Pre	25	30	7	0	3	0	3	0	3.29	0.66	0.03	0.7087	
	Post	25	32	5	0	3		3		3.32	0.62			
2	1	Pre	52	8	2	0	4	0	4	0	3.81	0.47	0.10	0.1348
		Post	56	6	0	0	4		4		3.90	0.30		
	2	Pre	45	16	1	0	4	0	4	0	3.71	0.49	-0.08	0.3009
		Post	41	19	2	0	4		4		3.63	0.55		
	3	Pre	40	20	2	0	4	0	4	0	3.61	0.55	-0.03	0.6982
		Post	38	22	2	0	4		4		3.58	0.55		
	4	Pre	50	12	0	0	4	0	4	0	3.81	0.40	-0.06	0.2085
		Post	46	16	0	0	4		4		3.74	0.44		
	5	Pre	47	14	1	0	4	0	4	0	3.74	0.47	-0.08	0.3009
		Post	44	15	3	0	4		4		3.66	0.57		
	6	Pre	57	4	1	0	4	0	4	0	3.90	0.35	-0.10	0.1348
		Post	51	10	1	0	4		4		3.81	0.43		
	7	Pre	52	9	1	0	4	0	4	0	3.82	0.42	-0.05	0.5360
		Post	51	8	3	0	4		4		3.77	0.52		
	8	Pre	7	39	15	1	3	0	3	0	2.84	0.63	-0.05	0.6258
		Post	8	36	15	3	3		3		2.79	0.72		
	9	Pre	47	13	2	0	4	0	4	0	3.73	0.51	0.03	0.6982
		Post	49	11	2	0	4		4		3.76	0.50		
	10	Pre	15	33	13	1	3	0	3	0	3.00	0.72	0.03	0.7840
		Post	16	34	10	2	3		3		3.03	0.74		
	11	Pre	30	21	11	0	3	0	4	0	3.31	0.75	0.02	0.8921
Post		29	24	9	0	3		4		3.32	0.71			
12	Pre	45	14	3	0	4	0	4	0	3.68	0.56	0.15	0.0600	
	Post	53	7	2	0	4		4		3.82	0.46			
13	Pre	29	26	6	1	3	0	4	-1	3.34	0.72	0.00	1.0000	
	Post	25	33	4	0	3		3		3.34	0.59			
14	Pre	9	40	10	3	3	0	3	0	2.89	0.70	-0.10	0.3587	
	Post	8	35	17	2	3		3		2.79	0.70			
15	Pre	42	16	3	1	4	0	4	0	3.60	0.66	0.05	0.5941	
	Post	44	14	4	0	4		4		3.65	0.60			
16	Pre	39	21	2	0	4	0	4	0	3.60	0.55	0.06	0.4542	
	Post	42	19	1	0	4		4		3.66	0.51			
17	Pre	4	13	31	14	2	0	2	0	2.11	0.83	-0.10	0.4505	
	Post	2	15	27	18	2		2		2.02	0.81			
18	Pre	53	7	2	0	4	0	4	0	3.82	0.46	-0.11	0.1633	
	Post	46	14	2	0	4		4		3.71	0.52			
19	Pre	40	20	2	0	4	0	4	0	3.61	0.55	-0.05	0.5679	
	Post	36	25	1	0	4		4		3.56	0.53			
20	Pre	58	3	1	0	4	0	4	0	3.92	0.33	0.03	0.4840	
	Post	59	3	0	0	4		4		3.95	0.21			
21	Pre	54	7	1	0	4	0	4	0	3.85	0.40	0.05	0.4098	
	Post	56	6	0	0	4		4		3.90	0.30			

設問		尺度				中央値	中央値の差 (Post-Pre)	最頻値	最頻値の差 (Post-Pre)	平均値	標準偏差	平均値の差 (Post-Pre)	p値 * p<0.05 ** p<0.01		
		4	3	2	1										
22	Pre	21	33	8	0	3	0	3	0	3.21	0.65	-0.10	0.3469		
	Post	17	37	6	2	3		3		3.11	0.70				
23	Pre	2	0	11	49	1	0	1	0	1.27	0.63	-0.05	0.6653		
	Post	2	1	6	53	1		1		1.23	0.63				
24	Pre	42	19	1	0	4	0	4	0	3.66	0.51	0.02	0.8207		
	Post	42	20	0	0	4		4		3.68	0.47				
25	Pre	55	6	1	0	4	0	4	0	3.87	0.38	-0.10	0.1818		
	Post	48	14	0	0	4		4		3.77	0.42				
26	Pre	7	28	24	3	3	0	3	0	2.63	0.75	0.06	0.6154		
	Post	8	30	21	3	3		3		2.69	0.75				
27	Pre	3	25	25	9	2	0	2	0	2.35	0.78	-0.18	0.0858		
	Post	4	16	29	13	2		2		2.18	0.83				
28	Pre	43	18	1	0	4	0	4	0	3.68	0.50	0.02	0.8293		
	Post	44	17	1	0	4		4		3.69	0.49				
II	1	1	Pre	31	25	5	1	3.5	-0.5	4	0	3.39	0.70	-0.02	0.8106
		Post	30	26	5	1	3		4		3.37	0.70			
	2	Pre	21	32	9	0	3	0	3	0	3.19	0.67	0.11	0.1276	
		Post	24	33	5	0	3		3		3.31	0.61			
	3	Pre	36	19	7	0	4	0	4	0	3.47	0.69	0.06	0.4187	
		Post	39	17	6	0	4		4		3.53	0.67			
	4	Pre	5	9	22	26	2	0	1	1	1.89	0.94	0.18	0.1465	
		Post	5	13	25	19	2		2		2.06	0.91			
	5	Pre	7	10	14	31	1.5	0.5	1	0	1.89	1.05	0.08	0.5395	
		Post	6	16	10	30	2		1		1.97	1.06			
	6	Pre	5	10	14	33	1	0	1	0	1.79	0.99	-0.15	0.2010	
		Post	3	8	15	36	1		1		1.65	0.88			
	7	Pre	2	2	17	41	1	0	1	0	1.44	0.71	0.00	1.0000	
		Post	0	7	13	42	1		1		1.44	0.69			
	8	Pre	10	14	13	25	2	1	1	0	2.15	1.12	0.34	0.0640	
		Post	16	18	8	20	3		1		2.48	1.19			
	9	Pre	2	8	16	36	1	1	1	0	1.61	0.83	0.34	0.0265 *	
		Post	6	10	21	25	2		1		1.95	0.97			
	10	Pre	2	5	18	37	1	1	1	0	1.55	0.78	0.44	0.0038 **	
		Post	7	11	18	26	2		1		1.98	1.02			
	2	1	Pre	19	29	14	0	3	0	3	0	3.08	0.73	-0.02	0.8921
		Post	16	35	10	1	3		3		3.06	0.69			
	2	Pre	7	25	20	10	3	0	3	0	2.47	0.89	0.10	0.4187	
		Post	8	29	15	10	3		3		2.56	0.91			
	3	Pre	3	16	23	20	2	0	2	0	2.03	0.88	0.11	0.3404	
		Post	7	13	24	18	2		2		2.15	0.96			
	4	Pre	54	7	1	0	4	0	4	0	3.85	0.40	0.03	0.5679	
		Post	56	5	1	0	4		4		3.89	0.36			
	5	Pre	25	24	12	1	3	0	4	-1	3.18	0.79	0.03	0.7604	
		Post	25	26	10	1	3		3		3.21	0.76			
	6	Pre	43	18	1	0	4	0	4	0	3.68	0.50	-0.02	0.8434	
		Post	45	13	4	0	4		4		3.66	0.59			
	7	Pre	2	8	14	38	1	0	1	0	1.58	0.83	0.08	0.4278	
		Post	2	8	19	33	1		1		1.66	0.82			
III	1	Pre	16	38	8	0	3	0	3	0	3.13	0.61	0.15	0.1511	
		Post	23	33	6	0	3		3		3.27	0.63			
	2	Pre	31	29	2	0	3.5	0.5	4	0	3.47	0.56	0.13	0.1590	
		Post	39	21	2	0	4		4		3.60	0.55			
	3	Pre	25	31	6	0	3	0	3	0	3.31	0.64	0.05	0.6258	
		Post	28	29	4	1	3		3		3.35	0.67			
	4	Pre	26	34	2	0	3	1	3	1	3.39	0.55	0.10	0.3807	
		Post	36	21	4	1	4		4		3.48	0.69			
	5	Pre	38	21	3	0	4	0	4	0	3.56	0.59	-0.05	0.6161	
		Post	37	20	5	0	4		4		3.52	0.64			
	6	Pre	35	24	3	0	4	0	4	0	3.52	0.59	0.06	0.5094	
		Post	38	22	2	0	4		4		3.58	0.55			
	7	Pre	32	24	6	0	4	0	4	0	3.42	0.66	0.15	0.0715	
		Post	38	21	3	0	4		4		3.56	0.59			
	8	Pre	26	29	7	0	3	1	3	1	3.31	0.66	0.06	0.4840	
		Post	32	21	9	0	4		4		3.37	0.72			
	9	Pre	38	21	3	0	4	0	4	0	3.56	0.59	0.06	0.4372	
		Post	41	19	2	0	4		4		3.63	0.55			
	10	Pre	40	18	4	0	4	0	4	0	3.58	0.61	0.11	0.1276	
		Post	44	17	1	0	4		4		3.69	0.49			
	11	Pre	35	20	7	0	4	-1	4	0	3.45	0.69	-0.08	0.3213	
		Post	29	27	6	0	3		4		3.37	0.65			
	12	Pre	22	35	5	0	3	0	3	0	3.27	0.60	-0.05	0.5679	
		Post	23	31	7	1	3		3		3.23	0.71			

設問

- 尺度 I そう思う(4)・まあそう思う(3)・あまりそう思わない(2)・そう思わない(1)
 II 当てはまる(4)・まあ当てはまる(3)・あまり当てはまらない(2)・当てはまらない(1)
 III 実践している(4)・まあ実践している(3)・あまり実践していない(2)・実践していない(1)

	カテゴリ	設問
I	1 スポーツの良さに対する保護者の認識	1.「健康・体力の保持増進」に良い 2.「人と人との交流」が生まれる 3.「精神的な充足感」が得られる 4.「豊かな人間性」が育まれる 5.「フェアプレイ精神(公正さと規律を尊ぶ態度)」が醸成される 6.「達成感」が得られる 7.「リラックス、癒し、爽快感」が得られる 8.「他者を尊重し協同する精神」が育まれる 9.「青少年の健全な発育」が促される 10.「地域の一体感や活力」が生まれる 11.「思考力や判断力の発達」が促される 12.「夢と感動」がある 13.「リーダーシップ、コミュニケーション能力」が高まる 14.「健康寿命」が伸びる 15.「克己心(自分の欲望を抑える力)、自制心」が育まれる
	2 子どもがスポーツをする時に大事にしてほしいこと	1.面白く遊び自分自身楽しむこと 2.自分のパフォーマンス(実力)を上達させること 3.よいスポーツマンシップを示すこと 4.いつもルールを守ってプレーすること 5.フェアになるように努めること 6.仲間を手助けしたり応援すること 7.他の人々の弱さを受け入れること(他人に対して寛容であること) 8.言われたとおりにすること 9.みんなで力を合わせて取り組むこと 10.周りの人々をガツカリさせないこと(誠実であること) 11.ワクワクする試合を行うこと 12.健康を維持すること 13.プレー中に気分が良い(思いどおりにプレーができてい)と感じること 14.他の人達に良い印象を示すこと 15.物事を一緒に行う仲間がいること 16.仲間と折り合いをつけながら協力すること 17.他の人より自分が優れていることを示すこと 18.自分の可能性(実力・限界)に挑戦すること 19.負けた時に相手を称えること 20.あきらめずにやり抜くこと 21.危険なプレーをしてしまったとき、素直に相手に謝れること 22.どんな結果であっても、審判の判断を尊重すること 23.プレー中に危険な行為をやられたら、負けずに同じことをやりかえすこと 24.うまくなるために指導者に相談すること 25.目標を決めて練習や試合にのぞむこと 26.辛かったら無理してやらなくてもよいこと 27.レギュラーにならなかったら嫌なことがあっても我慢すること 28.負けた(失敗した)とき、負けた(失敗した)ことを受け入れること
II	1 スポーツを通じた親子関係	1.私は子育てでスポーツを活かしたい(活かしている) 2.私は子育てでスポーツマンシップを活かしたい(活かしている) 3.子どもの成長にとってスポーツは欠かせないものだと思う 4.私は子どもがスポーツを始めてから、子どものためにコーチングや栄養などについて勉強した 5.フジスポの保護者との会話で、子どもの「運動能力」の話題になったことがある 6.フジスポの保護者との会話で、子どもの「自律心」の話題になったことがある 7.フジスポの保護者との会話で、「スポーツマンシップ」の話題になったことがある 8.フジスポに通うお子様との会話で、「運動能力」に関する話をしたり聞いた(たずねた)ことがある 9.フジスポに通うお子様との会話で、「自律に必要な5つの力」(※)に関する話をしたり聞いた(たずねた)ことがある(※「自律に必要な5つの力」とは「尊重」「勇気」「覚悟」「謙虚」「レジリエンス」(フジスポのウェブサイトより)) 10.フジスポに通うお子様との会話で、「スポーツマンシップ」に関する話をしたり聞いた(たずねた)ことがある
	2 子どもが失敗したりうまくいかない時の対応	1.私は子どもをなぐさめる 2.私は子どもを指導する 3.私は子どもに対して感情的になる 4.私は子どもが挑戦したことをほめる 5.私は子どもに次の目標を立てさせる 6.私は子どもから話を聞く 7.私はあえてそのことには触れない
III	子育てで大切にしていること	1.子どもが自分から進んで物事に取り組めるように見守っている。 2.子どもが自分で決めたことは尊重する。 3.子ども自身のことは子どもが自分で決めるように励ます。 4.子どもが自分で考えて行動できるように助言する(ヒントを与える)。 5.子どものことを決めるときは、どれがよいのか子どもの意見を聞く。 6.子どもが自分ひとりで決められないようなことには、選択肢を与える。 7.子どもに自信がなさそうなどときには、あなたならできると励ます。 8.子どもが行っていることが上手いかわかなくても、ありのままを受け入れている。 9.子どもの得意なことを伸ばせるように働きかける。 10.子どもが悲しんでいるときは、そばにいてあげる。 11.忙しくても、園や学校であった話を聞く。 12.子どもが話し始めたら、まずは最後まで聞いてあげる。

(事前調査と事後調査を比較して「増えたもの」と「減ったもの」：全体)

	増えたもの	減ったもの
1 スポーツの良さに対する保護者の認識	<ul style="list-style-type: none"> ・人と人との交流 * ・精神的な充足感 * ・夢と感動 * ・他者を尊重し共同する精神が育まれる ・リーダーシップ・コミュニケーション能力が高まる 	-
2 子どもがスポーツをする時に大事にしてほしいこと	-	<ul style="list-style-type: none"> ・プレー中に気分が良いと感じること
3 スポーツを通じた親子関係	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと「スポーツマンシップ」の話をした ** ・子どもと「自律に必要な 5 つの力」の話をした * ・子どものためにコーチングや栄養の勉強を始めた ・子どもと運動能力の話をした ・子どもが自分で決めたことは尊重する 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てにスポーツを活かしたい（活かしている）
4 子どもが失敗したりうまくいかない時の対応	-	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに次の目標を立てさせる
5 子育てで大切にしていること	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自分で考えて行動できるように助言する ・子どもが行っていることが上手いかわからなくてもありのままを受け入れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・忙しくても話を聞く

<事前-事後比較（インプット（介入）の有無）>

- 本分析の対象は、事前と事後の両方のアンケートに回答をした 62 名の会員世帯。
- そのうち、Pepper 親子授業やメルマガのアンケートに回答した方（n=15）を「インプットあり群」とし、それらのアンケートに回答がなかった方（n=47）を「インプットなし群」に分類した。（※アンケートに回答していなかった方の中にもインプットのあった方が含まれている可能性はあるが、本調査に割リソースの関係から、今回そこは厳密に検討をしなかった。
- 本分析では「移行率」を算出した。これは、4 段階の尺度（そう思う(4)・まあそう思う(3)・あまりそう思わない(2)・そう思わない(1)等）を 2 段階（4+3 と 2+1）に分け、それぞれの設問に関わる価値観・認識・行動の変化（転換）の割合を見たものである。つまり、あることから、「そう思う（行動している）人」と「そう思わない（行動していない）人」の割合が、事前と事後でどのくらい変化したのか、インプットがあった人となかった人ではその変化に違いがあったのか、を見ようとしている。厳密には、それぞれの n 数が異なるため、それぞれの割合が持つ意味は異なるが、簡易的に傾向を比較してみるためにその手法を用いた。
- 詳細は下表の通り。

「スポーツマンシップと子育てとのつながり」に関する保護者アンケート 調査結果(インプット有無比較)
 (事前調査:2021年7~11月、事後調査:2022年2~3月)

		(n=15)												(n=47)															
		インプットあり群						インプットなし群						インプットあり群						インプットなし群									
設問		尺度		中央値		最頻値		平均値		標準偏差	尺度		中央値		最頻値		平均値		標準偏差	尺度		中央値		最頻値		平均値		標準偏差	
		4	3	2	1	4+3	2+1	移行率	数値		差分	数値	差分	数値	差分	数値	差分	数値		差分	数値	差分	数値	差分	数値	差分	数値		差分
1	1 Pre	15	0	0	0	15	0	0.0%	4	0	4	0	4.00	-0.07	0.00	42	4	0	1	46	1	2.1%	4	0	4	0	3.85	0.11	0.50
	1 Post	14	1	0	0	15	0		4	4	4	4	3.93	0.25	0.25	45	2	0	0	47	0		4	4	4	4	3.96	0.20	0.20
2	2 Pre	10	4	1	0	14	1	0.0%	4	0	4	0	3.60	0.20	0.61	26	16	4	1	42	5	6.4%	4	0	4	0	3.43	0.15	0.74
	2 Post	13	1	1	0	14	1		4	4	4	4	3.80	0.54	0.54	29	16	2	0	45	2		4	4	4	3.57	0.57	0.57	
3	3 Pre	10	5	0	0	15	0	0.0%	4	0	4	0	3.67	0.13	0.47	26	19	1	1	45	2	2.1%	4	0	4	0	3.49	0.19	0.65
	3 Post	12	3	0	0	15	0		4	4	4	4	3.80	0.40	0.40	33	13	1	0	46	1		4	4	4	3.68	0.51	0.51	
4	4 Pre	9	6	0	0	15	0	0.0%	4	0	4	0	3.60	0.13	0.49	23	21	2	1	44	3	6.4%	3	1	4	0	3.40	0.15	0.67
	4 Post	11	4	0	0	15	0		4	4	4	4	3.73	0.44	0.44	26	21	0	0	47	0		4	4	4	3.55	0.50	0.50	
5	5 Pre	10	5	0	0	15	0	0.0%	4	0	4	0	3.67	0.20	0.47	33	12	1	1	45	2	2.1%	4	0	4	0	3.64	-0.04	0.63
	5 Post	13	2	0	0	15	0		4	4	4	4	3.87	0.34	0.34	29	17	1	0	46	1		4	4	4	3.60	0.53	0.53	
6	6 Pre	12	3	0	0	15	0	0.0%	4	0	4	0	3.80	0.07	0.40	41	4	2	0	45	2	2.1%	4	0	4	0	3.83	-0.02	0.48
	6 Post	13	2	0	0	15	0		4	4	4	4	3.87	0.34	0.34	39	7	1	0	46	1		4	4	4	3.81	0.44	0.44	
7	7 Pre	10	4	1	0	14	1	6.7%	4	0	4	0	3.60	0.13	0.61	24	19	3	1	43	4	2.1%	4	0	4	0	3.40	0.13	0.70
	7 Post	11	4	0	0	15	0		4	4	4	4	3.73	0.44	0.44	29	15	2	1	44	3		4	4	4	3.53	0.68	0.68	
8	8 Pre	7	8	0	0	15	0	-6.7%	3	1	3	1	3.47	0.13	0.50	22	23	1	1	45	2	2.1%	3	1	3	1	3.40	0.13	0.64
	8 Post	10	4	1	0	14	1		4	4	4	4	3.60	0.61	0.61	26	20	1	0	46	1		4	4	4	3.53	0.54	0.54	
9	9 Pre	8	4	3	0	12	3	20.0%	4	0	4	0	3.33	0.40	0.79	29	17	1	0	46	1	-2.1%	4	0	4	0	3.60	0.02	0.53
	9 Post	11	4	0	0	15	0		4	4	4	4	3.73	0.44	0.44	31	14	2	0	45	2		4	4	4	3.62	0.57	0.57	
10	10 Pre	3	7	4	1	10	5	13.3%	3	0	3	0	2.80	0.27	0.83	13	21	12	1	34	13	6.4%	3	0	3	0	2.98	-0.06	0.79
	10 Post	4	8	3	0	12	3		3	3	3	3	3.07	0.68	0.68	9	28	7	3	37	10		3	3	3	2.91	0.77	0.77	
11	11 Pre	9	6	0	0	15	0	0.0%	4	0	4	0	3.60	0.20	0.49	32	14	1	0	46	1	-2.1%	4	0	4	0	3.66	0.00	0.52
	11 Post	12	3	0	0	15	0		4	4	4	4	3.80	0.40	0.40	33	12	2	0	45	2		4	4	4	3.66	0.56	0.56	
12	12 Pre	9	5	1	0	14	1	6.7%	4	0	4	0	3.53	0.33	0.62	33	10	3	1	43	4	6.4%	4	0	4	0	3.60	0.11	0.70
	12 Post	13	2	0	0	15	0		4	4	4	4	3.87	0.34	0.34	34	12	1	0	46	1		4	4	4	3.70	0.50	0.50	
13	13 Pre	7	6	2	0	13	2	6.7%	3	1	4	0	3.33	0.27	0.70	23	17	7	0	40	7	6.4%	3	1	4	0	3.34	0.11	0.72
	13 Post	10	4	1	0	14	1		4	4	4	4	3.60	0.61	0.61	25	18	4	0	43	4		4	4	4	3.45	0.65	0.65	
14	14 Pre	10	5	0	0	15	0	0.0%	4	0	4	0	3.67	0.13	0.47	28	15	4	0	43	4	4.3%	4	0	4	0	3.51	0.02	0.65
	14 Post	12	3	0	0	15	0		4	4	4	4	3.80	0.40	0.40	28	17	1	1	45	2		4	4	4	3.53	0.65	0.65	
15	15 Pre	6	9	0	0	15	0	-6.7%	3	1	3	1	3.40	0.20	0.49	19	21	7	0	40	7	6.4%	3	0	3	0	3.26	-0.02	0.70
	15 Post	10	4	1	0	14	1		4	4	4	4	3.60	0.61	0.61	15	28	4	0	43	4		3	3	3	3.23	0.59	0.59	
2	2 Pre	12	3	0	0	15	0	0.0%	4	0	4	0	3.80	0.07	0.40	40	5	2	0	45	2	4.3%	4	0	4	0	3.81	0.11	0.49
	2 Post	13	2	0	0	15	0		4	4	4	4	3.87	0.34	0.34	43	4	0	0	47	0		4	4	4	3.91	0.28	0.28	
2	2 Pre	10	5	0	0	15	0	-6.7%	4	0	4	0	3.67	-0.07	0.47	35	11	1	0	46	1	0.0%	4	0	4	0	3.72	-0.09	0.49
	2 Post	10	4	1	0	14	1		4	4	4	4	3.60	0.61	0.61	31	15	1	0	46	1		4	4	4	3.64	0.52	0.52	
3	3 Pre	11	4	0	0	15	0	0.0%	4	0	4	0	3.73	-0.13	0.44	29	16	2	0	45	2	0.0%	4	0	4	0	3.57	0.00	0.57
	3 Post	9	6	0	0	15	0		4	4	4	4	3.60	0.49	0.49	29	16	2	0	45	2		4	4	4	3.57	0.57	0.57	
4	4 Pre	13	2	0	0	15	0	0.0%	4	0	4	0	3.87	-0.07	0.34	37	10	0	0	47	0	0.0%	4	0	4	0	3.79	-0.06	0.41
	4 Post	12	3	0	0	15	0		4	4	4	4	3.80	0.40	0.40	34	13	0	0	47	0		4	4	4	3.72	0.45	0.45	
5	5 Pre	13	2	0	0	15	0	0.0%	4	0	4	0	3.87	-0.20	0.34	34	12	1	0	46	1	-4.3%	4	0	4	0	3.70	-0.04	0.50
	5 Post	10	5	0	0	15	0		4	4	4	4	3.67	0.47	0.47	34	10	3	0	44	3		4	4	4	3.66	0.59	0.59	
6	6 Pre	13	2	0	0	15	0	-6.7%	4	0	4	0	3.87	-0.07	0.34	44	2	1	0	46	1	2.1%	4	0	4	0	3.91	-0.11	0.35
	6 Post	13	1	1	0	14	1		4	4	4	4	3.80	0.54	0.54	38	9	0	0	47	0		4	4	4	3.81	0.39	0.39	
7	7 Pre	13	2	0	0	15	0	-6.7%	4	0	4	0	3.87	-0.13	0.34	39	7	1	0	46	1	-2.1%	4	0	4	0	3.81	-0.02	0.44
	7 Post	12	2	1	0	14	1		4	4	4	4	3.73	0.57	0.57	39	6	2	0	45	2		4	4	4	3.79	0.50	0.50	
8	8 Pre	2	10	3	0	12	3	13.3%	3	0	3	0	2.93	0.07	0.57	5	29	12	1	34	13	-8.5%	3	0	3	0	2.81	-0.09	0.64
	8 Post	1	13	1	0	14	1		3	3	3	3	3.00	0.37	0.37	7	23	14	3	30	17		3	3	3	2.72	0.79	0.79	
9	9 Pre	10	5	0	0	15	0	0.0%	4	0	4	0	3.67	0.20	0.47	37	8	2	0	45	2	0.0%	4	0	4	0	3.74	-0.02	0.52
	9 Post	13	2	0	0	15	0		4	4	4	4	3.87	0.34	0.34	36	9	2	0	45	2		4	4	4	3.72	0.53	0.53	
10	10 Pre	5	8	2	0	13	2	6.7%	3	0	3	0	3.20	0.07	0.65	10	25	11	1	35	12	2.1%	3	0	3	0	2.94	0.02	0.73
	10 Post	5	9	1	0	14	1		3	3	3	3	3.27	0.57	0.57	11	25	9	2	36	11		3						

		(n=15)											(n=47)																
設問		インプットあり群											インプットなし群																
		尺度					中央値		最頻値		平均値		標準偏差	尺度					中央値		最頻値		平均値		標準偏差				
		4	3	2	1	4+3	2+1	移行率	数値	差分	数値	差分	数値	差分	標準偏差	4	3	2	1	4+3	2+1	移行率	数値	差分	数値	差分	数値	差分	標準偏差
23	Pre	1	0	4	10	1	14	-6.7%	1	0	1	0	1.47	-0.27	0.81	1	0	7	39	1	46	4.3%	1	0	1	0	1.21	0.02	0.54
	Post	0	0	3	12	0	15		1	1	1	1	1.20		0.40	2	1	3	41	3	44		1	1	1	1	1.23		0.69
24	Pre	12	3	0	0	15	0	0.0%	4	0	4	0	3.80	-0.07	0.40	30	16	1	0	46	1	2.1%	4	0	4	0	3.62	0.04	0.53
	Post	11	4	0	0	15	0		4	4	4	4	3.73		0.44	31	16	0	0	47	0		4	4	4	4	3.66		0.47
25	Pre	13	2	0	0	15	0	0.0%	4	0	4	0	3.87	0.00	0.34	42	4	1	0	46	1	2.1%	4	0	4	0	3.87	-0.13	0.39
	Post	13	2	0	0	15	0		4	4	4	4	3.87		0.34	35	12	0	0	47	0		4	4	4	4	3.74		0.44
26	Pre	1	6	8	0	7	8	0.0%	2	0	2	0	2.53	0.00	0.62	6	22	16	3	28	19	6.4%	3	0	3	0	2.66	0.09	0.78
	Post	2	5	7	1	7	8		2	2	2	2	2.53		0.61	6	25	14	2	31	16		3	3	3	3	2.74		0.73
27	Pre	1	7	5	2	8	7	-20.0%	3	-1	3	-1	2.47	-0.27	0.81	2	18	20	7	20	27	-10.6%	2	0	2	0	2.32	-0.15	0.77
	Post	1	4	7	3	5	10		2	2	2	2	2.20		0.83	3	12	22	10	15	32		2	2	2	2	2.17		0.83
28	Pre	11	4	0	0	15	0	0.0%	4	0	4	0	3.73	0.13	0.44	32	14	1	0	46	1	0.0%	4	0	4	0	3.66	-0.02	0.52
	Post	13	2	0	0	15	0		4	4	4	4	3.87		0.34	31	15	1	0	46	1		4	4	4	4	3.64		0.52
I 1	Pre	11	3	0	1	14	1	0.0%	4	0	4	0	3.60	0.00	0.80	20	22	5	0	42	5	0.0%	3	0	3	0	3.32	-0.02	0.66
	Post	10	4	1	0	14	1		4	4	4	4	3.60		0.61	20	22	4	1	42	5		3	3	3	3	3.30		0.71
2	Pre	7	8	0	0	15	0	0.0%	3	1	3	1	3.47	0.13	0.50	14	24	9	0	38	9	8.5%	3	0	3	0	3.11	0.11	0.69
	Post	9	6	0	0	15	0		4	4	4	4	3.60		0.49	15	27	5	0	42	5		3	3	3	3	3.21		0.62
3	Pre	11	4	0	0	15	0	0.0%	4	0	4	0	3.73	0.13	0.44	25	15	7	0	40	7	2.1%	4	0	4	0	3.38	0.04	0.73
	Post	13	2	0	0	15	0		4	4	4	4	3.87		0.34	26	15	6	0	41	6		4	4	4	4	3.43		0.71
4	Pre	3	3	8	1	6	9	13.3%	2	1	2	1	2.53	0.00	0.88	2	6	14	25	8	39	4.3%	1	1	1	1	1.68	0.23	0.85
	Post	1	7	6	1	8	7		3	3	3	3	2.53		0.72	4	6	19	18	10	37		2	2	2	2	1.91		0.92
5	Pre	3	3	5	4	6	9	0.0%	2	0	2	0	2.33	-0.13	1.07	4	7	9	27	11	36	10.6%	1	0	1	0	1.74	0.15	1.00
	Post	1	5	5	4	6	9		2	2	2	2	2.20		0.91	5	11	5	26	16	31		1	1	1	1	1.89		1.10
6	Pre	2	3	5	5	5	10	-13.3%	2	0	2	-1	2.13	-0.33	1.02	3	7	9	28	10	37	-4.3%	1	0	1	0	1.68	-0.09	0.95
	Post	1	2	5	7	3	12		2	1	1	1	1.80		0.91	2	6	10	29	8	39		1	1	1	1	1.60		0.87
7	Pre	2	0	7	6	2	13	6.7%	2	-1	2	-1	1.87	-0.27	0.96	0	2	10	35	2	45	4.3%	1	0	1	0	1.30	0.09	0.54
	Post	0	3	3	9	3	12		1	1	1	1	1.60		0.80	0	4	10	33	4	43		1	1	1	1	1.38		0.64
8	Pre	2	4	5	4	6	9	33.3%	2	1	2	1	2.27	0.67	1.00	8	10	8	21	18	29	10.6%	2	0	1	0	2.11	0.23	1.15
	Post	5	6	2	2	11	4		3	3	3	3	2.93		1.00	11	12	6	18	23	24		2	2	2	2	2.34		1.21
9	Pre	1	2	6	6	3	12	13.3%	2	0	2	0	1.87	0.33	0.88	11	6	10	30	7	40	8.5%	1	1	1	1	1.53	0.34	0.79
	Post	3	2	5	5	5	10		2	2	2	2	2.20		1.11	3	8	16	20	11	36		2	2	2	2	1.87		0.91
10	Pre	1	2	6	6	3	12	26.7%	2	0	2	2	1.87	0.67	0.88	1	3	12	31	4	43	14.9%	1	1	1	0	1.45	0.36	0.71
	Post	6	1	3	5	7	8		2	4	2	4	2.53		1.31	1	10	15	21	11	36		2	1	1	1	1.81		0.84
2 1	Pre	6	4	5	0	10	5	26.7%	3	0	4	-1	3.07	0.27	0.85	13	25	9	0	38	9	-2.1%	3	0	3	0	3.09	-0.11	0.68
	Post	6	8	1	0	14	1		3	3	3	3	3.33		0.60	10	27	9	1	37	10		3	3	3	3	2.98		0.70
2	Pre	2	8	4	1	10	5	0.0%	3	0	3	0	2.73	0.00	0.77	5	17	16	9	22	25	10.6%	2	1	3	0	2.38	0.13	0.91
	Post	2	8	4	1	10	5		3	3	3	3	2.73		0.77	6	21	11	9	27	20		3	3	3	3	2.51		0.94
3	Pre	0	6	4	5	6	9	0.0%	2	0	3	-1	2.07	0.20	0.85	3	10	19	15	13	34	2.1%	2	0	2	0	2.02	0.09	0.89
	Post	2	4	5	4	6	9		2	2	2	2	2.27		1.00	5	9	19	14	14	33		2	2	2	2	2.11		0.95
4	Pre	15	0	0	0	15	0	0.0%	4	0	4	0	4.00	0.00	0.00	39	7	1	0	46	1	0.0%	4	0	4	0	3.81	0.04	0.44
	Post	15	0	0	0	15	0		4	4	4	4	4.00		0.00	41	5	1	0	46	1		4	4	4	4	3.85		0.41
5	Pre	8	5	1	1	13	2	6.7%	4	0	4	0	3.33	0.13	0.87	17	19	11	0	36	11	2.1%	3	0	3	0	3.13	0.00	0.76
	Post	8	6	1	0	14	1		4	4	4	4	3.47		0.62	17	20	9	1	37	10		3	3	3	3	3.13		0.79
6	Pre	12	3	0	0	15	0	-6.7%	4	0	4	0	3.80	-0.07	0.40	31	15	1	0	46	1	-4.3%	4	0	4	0	3.64	0.00	0.52
	Post	12	2	1	0	14	1		4	4	4	4	3.73		0.57	33	11	3	0	44	3		4	4	4	4	3.64		0.60
7	Pre	1	4	1	9	5	10	-13.3%	1	0	1	0	1.80	-0.13	1.05	1	4	13	29	5	42	4.3%	1	0	1	0	1.51	0.15	0.74
	Post	0	3	4	8	3	12		1	1	1	1	1.67		0.79	2	5	15	25	7	40		1	1	1	1	1.66		0.83
III 1	Pre	4	10	1	0	14	1	0.0%	3	0	3	1	3.20	0.20	0.54	12	28	7	0	40	7	4.3%	3	0	3	0	3.11	0.13	0.63
	Post	7	7	1	0	14	1		3	4	3	4	3.40		0.61	16	26	5	0	42	5		3	3	3	3	3.23		0.63
2	Pre	7	7	1	0	14	1	6.7%	3	1	4	0	3.40	0.33	0.61	24	22	1	0	46	1	-2.1%	4	0	4	0	3.49	0.06	0.54
	Post	11	4	0	0	15	0		4	4	4	4	3.73		0.44	28	17	2	0	45	2		4	4	4	4	3.55		0.58
3	Pre	7	6	2	0	13	2	13.3%	3	0	4	-1	3.33	0.13	0.70	18	25	4	0	43	4	-2.1%	3	0	3	1	3.30	0.02	0.62
	Post	7	8	0	0	15	0		3	3	3	3	3.47		0.50	21	21	4	1	42	5		3	4	4	4	3.32		0.72
4	Pre	8	7	0	0	15	0	-6.7%	4	0	4	0	3.53	0.07	0.50	18	27	2	0	45	2	-4.3%	3	1	3	1	3.34	0.11	0.56
	Post	10	4	1	0	14	1		4	4	4	4	3.60		0.61	26	17	3	1	43	4		4	4	4	4	3.45		0.71
5	Pre	12	3	0	0	15	0	0.0%	4	0	4	0	3.80	-0.07	0.40	26	18	3	0	44	3	-4.3%	4	0	4	0	3.49	-0.04	0.61
	Post	11	4	0	0	15	0		4	4	4	4	3.73		0.44	26	16	5	0	42	5		4	4	4	4	3.45		0.68
6	Pre	9	5	1	0	14	1	6.7%	4	0	4	0	3.53	0.20	0.62	26	19	2	0	45	2	0.0%	4	0	4	0	3.51	0.02	0.58
	Post	11	4	0	0	15	0		4	4	4	4	3.73		0.44	27	18</												

(事前調査と事後調査を比較して「増えたもの」と「減ったもの」：インプットあり／なし群)

価値観・認識・行動の移行率		インプットあり群 (n=15)	インプットなし群 (n=47)
増えたもの	20%以上	<u>スポーツの良さに対する保護者の認識</u> ・「青少年の健全な発育」が促される <u>子どもがスポーツをする時に大事にしてほしいこと</u> ・ワクワクする試合を行うこと <u>スポーツを通じた親子関係</u> ・子どもとの会話で「運動能力」に関する話をした ・子どもとの会話で「スポーツマンシップ」に関する話をした <u>子どもが失敗したりうまくいかない時の対応</u> ・私は子どもをなぐさめる	-
	10%台	<u>スポーツの良さに対する保護者の認識</u> ・「地域の一体感や活力」が生まれる <u>子どもがスポーツをする時に大事にしてほしいこと</u> ・言われたとおりにすること <u>スポーツを通じた親子関係</u> ・子どものためにコーチングや栄養などについて勉強した <u>子育てで大切にしていること</u> ・子ども自身のことは子どもが自分で決めるように励ます	<u>スポーツを通じた親子関係</u> ・保護者との会話で、子どもの「運動能力」の話題になったことがある ・子どもとの会話で「運動能力」に関する話をした ・子どもとの会話で「スポーツマンシップ」に関する話をした <u>子どもが失敗したりうまくいかない時の対応</u> ・私は子どもを指導する
減ったもの	-10%台	<u>子どもがスポーツをする時に大事にしてほしいこと</u> ・他の人達に良い印象を示すこと <u>スポーツを通じた親子関係</u> ・保護者との会話で、子どもの「自律心」の話題になったことがある <u>子どもが失敗したりうまくいかない時の対応</u> ・私はあえてそのことには触れない	<u>子どもがスポーツをする時に大事にしてほしいこと</u> ・レギュラーになりたかったら嫌なことがあっても我慢すること
	-20%以上	<u>子どもがスポーツをする時に大事にしてほしいこと</u> ・レギュラーになりたかったら嫌なことがあっても我慢すること	-

3-5-4. 考察

<全体での変化について>

- スポーツを通じた親子関係において「子どもと『スポーツマンシップ』や『自律に必要な 5 つの力』の話をした」保護者や「子どもが自分で決めたことは尊重する」保護者が増えたことや、子育てで大切にしていることにおいて、「子どもが自分で考えて行動できるように助言する」保護者や「子どもが行っていることが上手いかわくてもありのままを受け入れる」保護者が増えたことは、本事業での取組やそれに関わる連携スポーツクラブ代表者からの発信が影響したと考えられる。
- スポーツの良さに対する保護者の認識における 5 項目の増加は、本事業としての影響よりも、むしろ本調査期間中における東京 2020 大会の開催が影響した可能性が考えられる。
- 子どもがスポーツをする時に大事にしてほしいことにおいて、「プレー中に気分が良いと感じること」と回答した保護者が減ったことや、子どもが失敗したりうまくいかない時の対応において、「子どもに次の目標を立てさせる」保護者が減ったことは、子ども自身の「他者との関係性」や「主体性」に関する保護者の認識の変化があったことを示しているとも考えられ、その変化に対して本事業でのインプットが影響を与えた可能性も考えられる。
- 本調査の限界として、事前調査期間が伸びたことで、本事業の開始後に回答した保護者も含まれていることに留意が必要である。また本分析では、取組と結果の相関関係の分析は行っていない。「子どもと『スポーツマンシップ』や『自律に必要な 5 つの力』の話をした」といった、極めて限定的なテーマに関する項目については相関関係があるとみなすことはできるが、それ以外の項目について考察で議論していることは推測に過ぎない。

<インプット（介入）の有無の変化について>

- 全体的な傾向としては、インプット「あり群」は「なし群」に比べ、10%以上変化した項目が多くあった（あり群：13 項目、なし群：5 項目）。
- インプット「あり群」だけが増加した項目で、20%以上増加したものは「（スポーツの良さは）青少年の健全な育成が促されること」「（子どもがスポーツをする時に大事にしてほしいことは）ワクワクする試合を行うこと」「（子どもがうまくいかない時）私は子どもをなぐさめる」の 3 項目。→【考察】スポーツの教育（育成的価値やスポーツを愉しむことの大切さをより認識したり、子どもに寄り添う態度が増加した傾向が見られる。
- インプット「あり群」「なし群」とともに増加した項目は「子どもとの会話で「運動能力」に関する話をした」「子どもとの会話で「スポーツマンシップに関する話をした」の 2 項目、ともに減少した項目は「レギュラーになりたかったら嫌なことがあっても我慢すること」の 1 項目。→【考察】増加した 2 項目は、オリパラ等、「あり群」「なし群」共通の外部要因の影響を受けている可能性があるが、「あり群」の増加率が「なし群」に比べて高いことから、その差は本事業でのインプットが正に影響した可能性がある。また、直接インプットを受けなくても、クラブとしてそういった取組を周知・広報した派生的な影響が「なし群」にも及んだ可能性も含まれる。減少した 1 項目も、オリンピックでのスケートボードやスノーボードでのシーンを通じたこれからのスポーツの形（価値）の可視化等、「あり群」「なし群」共通の外部要因の影響を受けている可能性があるが、「あり群」の減少率が「なし群」に比べて高いことから、その差は本事業でのインプットが正に影響した可能性がある。

- 本調査の限界として、本分析は、インプットあり群なし群ともに同様の属性（年齢層、性別）を仮定しているが、実際にはばらつきがある可能性があり、それが分析結果に影響している可能性がある。また、インプットあり群（介入群）となし（対照群）の介入前の価値観・認識・行動状況に差がないことの検証は行えなかったため、介入を選択した保護者は元々、対照群となった保護者と価値観・認識・行動状況に違いがあった可能性もある。

<周知・広報>

- 事前アンケートを実施する際は、以下のチラシを作成し、各教室にて回収率を高めるための取組を実施した。

フジスポーツクラブ JSA

フジスポーツクラブ会員保護者の皆さんへ

アンケート お子様のより良い成長のための!

ご協力をお願い

アンケートご回答締切 8/20(金) アンケートご回答方法

STEP1 スマートフォン等で下のQRコードを読み取る。

STEP2 回答者情報を入力しアンケートに回答する。(所要時間10分程度)

STEP3 最後まで回答し送信したら終了!

アンケートにお答え下さった方に朗報!!

アンケートにお答え頂いた方の中から、親子80組(20組×4回)を「Pepperの特別オンライン授業」にご招待いたします。スポーツマンシップを学ぶことで、スポーツへの意識が変わるだけではなく、人として成長するためにどんなことが必要なかを学ぶことができます! ※詳しくは、別途配布チラシを参照してください。

Pepperと学べるビッグチャンス!!

奮ってご参加ください!

ご回答にあたって

- 会員の保護者様1名がお答え下さい。お子様が2人以上いらっしゃる場合も1回のみをお願いします。
- お子様が2人以上いる方は、1番上のお子様の会員ナンバーをご記入下さい。

本アンケートは会員の保護者全員の方にご回答をお願いしております。

フジスポーツクラブが今年度、新たにご提供する「Pepperの特別オンライン授業」や「保護者向けオンラインセミナー」などの各種プログラムが、会員の皆様にとって有意義なものとなるよう、日本スポーツマンシップ協会の協力を得て、その効果や改善点を検証するためのものとして実施いたします。お手数をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

● 日本スポーツマンシップ協会(JSA)とは

日本スポーツマンシップ協会(JSA)は、スポーツマンシップの普及・啓発・推進を通してよりよき人を育み、よりよき社会づくりに挑戦している団体です。フジスポーツクラブでは、指導員全員がJSA公認の「スポーツマンシップコーチ」資格を取得しています。

● 調査主催
フジスポーツクラブ・日本スポーツマンシップ協会

● お問い合わせ先
各教室指導員、または下記責任者まで。
姓 [] 担当: []

● お預かりした個人情報取り扱いについて
アンケート結果は個人が特定されないように統計的に匿名処理されますのでご安心下さい。

4. 本事業の成果と課題

4-1. 成果

- 本事業では、スポーツ環境の中で獲得した子ども自身のスポーツマンシップが、生活環境の中でも発揮されるような保護者の関わり方の実現を目指して、新たに保護者を対象としたスポーツマンシップ教育プログラムを開発し、実証的にその効果や課題の検証を行なった。
- 本事業での取組を通じて、今回対象とした保護者には、①スポーツを通じて子育てを充実させたいという意欲やそのための知識の吸収に関心がある群（タイプ1：関心層）と、②漠然とスポーツは良いものだと考えてスポーツクラブに子どもを通わせているが、それを子育てに積極的に結びつけたり、自分自身が学んだりする意向はない群（タイプ2：無関心層）があることが分かった。
- タイプ1の保護者には、その意欲や関心に応える適切な情報や機会を適時に提供することによって、保護者の認識・知識が変化し、それに伴う行動（子どもへの向き合い方、関わり方）も変化する可能性があることが実証的に確認できた。
- 特に、プログラムに参加した保護者（介入群）は参加しなかった保護者（対照群）に比べて、(a) スポーツに対する価値観の観点からは、「スポーツを楽しむこと」や「スポーツが子どもの発育に良いものであること」に対する認識が大きく増加し、「レギュラーになりたかったら嫌なことがあっても我慢する」という認識が大きく減少した。また (b) スポーツや子育てにおける子どもへの関わり方の観点からは、子どもが失敗したりうまくいかない時、「あえてそのことに触れない」という行動が減少し、「子どもをなぐさめる」という行動が大きく増加した。加えて、「子ども自身のことは子どもが自分で決めるように励ます」という行動も増加の傾向が見られた。
- これらのことから、保護者を対象としたスポーツマンシップ教育プログラムは、保護者のスポーツに対する価値観の変化や子どもへの関わり方の行動の変化に対して一定の効果があると考えられる。
- 本事業全体を通じて特に手応えが得られた取組は「人型ロボット Pepper によるオンライン親子教室」である。事後アンケートにおいて、本プログラムに参加した利点として「親子で学べた」ことを挙げる保護者が最も多かったことは、親子が一緒に参加する形式の教育プログラムに対するニーズの一端を示している。
- 子どもにとっては、保護者と一緒だからこそ、①安全地帯から少しの勇気を持って未知の取組に参加できた可能性があるとともに、②子どもが初めて会う他の参加者の前でも一歩を踏み出して発言することに挑戦できた可能性がある⁶。
- 保護者にとっては、褒められて喜んだり、いつもより少し頑張ってみたり、緊張する、いつもと違う子どもの姿を目の当たりにすることで、①子どもの持つ潜在的な力や特長に対する認識を新たにしたり、子どもが主体的に学ぶ姿や本プログラム後に子ども自身が日頃の振り舞いを振り返る行動に接したことで、②課題に対する向き合わせ方や寄り添い方次第で、子どもは何かを与えられてやられないとできない存在ではなく、自ら

⁶ コロナ禍の中、今回はオンラインでの実施となった。この形式が実際に集合して行われる親子教室とどのような違いがあるかは本事業では検証していないが、オンラインであったことが子どもの参加や挑戦のハードルを下げて奏功した可能性もある。

考え前に進むことができる、「自立／自律」しうる存在であることに対する認識・理解が促された可能性があると考えられる。

- 何よりも、「子どもが楽しく参加し学べて良かった」といった感想が多く、そのことが保護者の満足度や推奨度を高めていると考えられることから、「親子共同学習型」の保護者向けスポーツマンシップ教育プログラムは、特に小学生の子どもを持つ保護者に対する有力な介入方法の一つであると考えられる。

4-2. 活動を通じて明らかになった新たな課題と対応策

- 本事業で対象としたスポーツクラブ会員約 1,900 世帯の中で、本事業の取組に関心を示した保護者は限定的であった（初期調査（任意）への回答率約9%）。また、本事業の各プログラムに参加した保護者はさらに限られていた。このことから、本事業をさらに広く普及・発展していくためには、以下の課題に対応していく必要がある。
- 一点目に、タイプ1（関心層）の保護者の参加を増やすための方策の検討が必要である。今回の取組の主たる対象は小学生の子どもを持つ保護者であり、仕事や子育てなどで忙しい日常生活において、本プログラムに充当する時間を新たに確保すること自体が保護者にとっては容易ではないことが分かった。保護者へのヒアリングを通じて、保護者によって確保可能な時間帯が異なることも明らかになった。親子一緒に参加するプログラムか、保護者だけが参加するセミナーかによって異なるが、対応案としては、参加可能な曜日や時間帯に複数の選択肢を設けることや、セミナー系のプログラムはライブでの開催後、オンデマンドで視聴可能なコンテンツとして提供するということが考えられる。
- 二点目に、タイプ1（関心層）の保護者が時間を割いても参加してみようと思えるプログラム内容や訴求方法への工夫にも改善の余地があると考えられる。今回は当該スポーツクラブの協力も得ながら、保護者にお便りを直接手渡ししていただいたり、各教室の受付付近や子どもの教室を参観するエリア付近などにポスターを掲示するなど、情報としては一定の数のタイプ1の保護者に認知されていたと考えられるが、最終的に参加に至らなかったケースも少なくなかったと考えられる。保護者セミナー企画時における保護者への事前ヒアリングを通じて、例えば、スポーツを通じた子育てに積極的に取り組んできた先輩保護者の話や、子育ての専門家の視点から見たスポーツの良さの話など、具体的な内容へのニーズもあることが分かっていたが、本事業では実現できなかった反省もあることから、今後はそのような関心の高いコンテンツを提供していくことで、より多くの参加につなげていくことが考えられる。一方で、ニーズとして顕在化しづらい未知の知識については、そのような関心のあるコンテンツを参加の入り口（ゲートウェイ）として、それに組み合わせる形で未知の知識を提供することで、直接的には関心の得づらいコンテンツの提供も促進できると良いと考えられる。
- 三点目に、タイプ2（無関心層）の保護者に対する関心の喚起の課題が残されている。この点については、本事業で得られた知見は少ない。一方で、本事業で対象としたスポーツクラブ会員の場合、子どもの送迎のためにほぼすべての保護者が教室に足を運んだり、クラブからのお便りを受け取るなど、スポーツクラブに子どもを通わせていない保護者に比べると、保護者当事者に対する情報伝達や機会提供のルートが確立されている利点がある。今後は、このような利点をどのように活用することが、タイプ2の保護者の行動変容ステージをタイプ1（関心層）に移行することができるか、引き続き検討を行いたい。

5. おわりに

- 本事業は、「スポーツからの学びを日常生活につなげる、保護者向けスポーツマンシップ教育プログラム」を開発することをめざして、1年間の取組を行なってきました。
- ここまで様々な角度から報告してきたとおり、本事業では、一定の手応えを感じつつも、一方で、それ以上の難しさも本事業に関わったプロジェクトメンバー一同が実感しました。それでもいま、私たちはこの取組を続けいくことで、これまでとは違った景色を見ることができるのではないか、という希望を持っています。
- この希望を見出すきっかけを与えていただいた日本財団には、心より感謝申し上げますとともに、ここを新たなスタートラインとして、本事業で得られた成果や課題を、次のアクションの土台にしっかりと据えて取組を続けていきたいと考えています。
- また、本事業の成果を広く関係者に共有し、それを新たな対話や議論の入り口としながら、次の課題に向けた取組の環を広げていきたいと考えています。本事業にご関心のある皆様には、忌憚のないコメントやフィードバックをいただければ幸いです。

* * *

最後に、弊協会の代表理事である中村が、本プロジェクトの slack チームで本事業の総括の最後につづやいたコメントを転載し、本報告を締めたいと思います。

今回保護者の関心が低いことが問題・課題というような話が皆さんからもあがっていましたが、だからこそ、やはり、保護者層のみなさんへのスポーツマンシップの認知（というよりもその手前にある、「日本における教育そのもののあり方」についての認知こそが最も重要で、そのために「スポーツが果たすべき教育的役割と、スポーツの現状におけるそもそもの問題・課題」を「認知する」ところがまずは大きな課題なのだと思います。そもそも、それが成し遂げられるのであれば、別にスポーツを通した教育でなくていいわけで。でも、スポーツを選択するからには、スポーツの現場でどのような教育・指導が行えるか、が重要だと思います。ギリシア哲学の時代から、「徳を教えらるる人はこの世にいない」といった命題が挙げられているように、教員・指導者・保護者といった先人が、そもそもその立場にふさわしい人材か、という問題があると思います（多分に自戒も込めて）。私自身、教員になるための学びをしてきませんでしたし、教育学についての専門家でもないのですが、それでも教育に携わってしまっているという恐怖感があります。我が物顔、したり顔で講演したり、講義したり、能書きを垂れたりすることが本当に許されるのか、という恐怖心との闘いでもあります。そうしたなかで、指導者をかかえて子どもたちを預かるスポーツクラブもそうでしょうし、保護者として子育てする親御さんもそうでしょうし、未熟な大人たちがどのように自分と向き合い、子どもと向き合っていくのか、はものすごく難しいテーマだと思います。ただ、難しいといって投げ出すのではなく、何かしら参考になるよき方法を研究しながら実践し、それをもとに、提言し続けていかねばいけないとあらためて実感しているところです。少なくとも、大学教員という立場があることは、その実験・実践の場であることは確かで、彼らの意見や感想、忌憚ないフィードバックをこれからも得られるような環境整備に努力しながら、教員、指導者、保護者、アスリート／選手／子ども、それぞれによきソリューション

をアップデートしていきたいと思います。難しい問題であることが再確認できたと同時に、間違いなく保護者へのアプローチは重要な課題であることが再確認できた良い機会になったと思います。それが再確認できた、ということ、これからも取り組み続けていかないといけないことがよく理解できたことが最大の成果かもしれません。子どもが最も素直なので、子どもへのアプローチを通して、大人世代に訴えかけていくというのが王道になりそうな気がします。その意味で、Pepper を活用した若者たちによって子どもたちへ指導するプログラムの拡大などはめっちゃ本命かもしれない、というのが実感としてはあります。引き続き、頑張ってください。

* * *

プロジェクトメンバー

- 中村聡宏 一般社団法人日本スポーツマンシップ協会 代表理事/会長
- 阿部篤志 一般社団法人日本スポーツマンシップ協会 理事
- 江口桃子 一般社団法人日本スポーツマンシップ協会 理事
- 長谷直樹 一般社団法人日本スポーツマンシップ協会 理事
- 伊藤良師 一般社団法人日本スポーツマンシップ協会 スタッフ
- 関 康一 一般社団法人日本スポーツマンシップ協会 スタッフ
- 村山裕紀 一般社団法人日本スポーツマンシップ協会 スタッフ

(Pepper 親子授業の運営)

- 戸部田陸人 千葉商科大学 サービス創造学部 4 年
- 新海菜々 千葉商科大学 サービス創造学部 3 年
- 長坂美咲 千葉商科大学 サービス創造学部 3 年
- 大竹真由 千葉商科大学 サービス創造学部 3 年
- 井田颯太 千葉商科大学 サービス創造学部 2 年
- 小野寺月 千葉商科大学 サービス創造学部 2 年
- 荒引里菜 千葉商科大学 サービス創造学部 2 年
- 横尾佳奈 千葉商科大学 サービス創造学部 2 年
- 松島維吹 千葉商科大学 サービス創造学部 2 年
- 高倉未樹 千葉商科大学 サービス創造学部 2 年
- 岩井陸飛 千葉商科大学 サービス創造学部 2 年

(メールマガジンの運営)

- 奈良明莉 千葉商科大学 サービス創造学部 3 年
- 荒引里菜 千葉商科大学 サービス創造学部 2 年
- 山下達也 千葉商科大学 サービス創造学部 2 年

プロジェクト協力者 (敬称略)

- 宮下裕至 フジスポーツクラブ代表 (本事業へのフィールド提供・支援、取組への助言・参画)
- 高樹ミナ スポーツライター (メールマガジンの企画・運営、編集長)

Version

1.2 - 2024 年 1 月 18 日 誤植の修正

1.1 - 2022 年 4 月 20 日 一部文章及びレイアウトの修正

1.0 - 2022 年 4 月 15 日 CANPAN FIELDS に掲載 <https://fields.canpan.info/report/detail/27079>

2021（令和 3）年度日本財団助成事業

スポーツからの学びを日常生活につなげる、保護者向けスポーツマンシップ教育プログラム 事業報告書

2022 年 3 月

一般社団法人日本スポーツマンシップ協会

連絡先 info@sportsmanship.jp

URL <https://sportsmanship.jp/>